

一般社団法人日本鉱物科学会 2019年度 定時総会 資料 決算及び事業報告

日時：2020年9月18日（金）9：00～10：10

場所：東北大学 新青葉山キャンパス環境科学研究科本館 大会議室
（〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-20）

開会宣言：

会長挨拶：

物故会員への黙祷：

しまづみつお 島津光夫 名誉会員	みなとひでお 湊 秀雄 名誉会員	いしはらしゅんそう 石原 舜三 名誉会員	おおぬまこうすけ 大沼晃助 名誉会員
すわかねのり 諏訪兼位 永年会員	やすだとしかず 安田俊一 永年会員	しばた けん 柴田 賢 永年会員	ほそのよしずみ 細野義純 永年会員
ふじもとまさたろう 藤本 雅太郎 永年会員	すずき たかし 鈴木 堯士 永年会員	まつえだひろはる 松枝大治 シニア会員	かさまたけし 笠間丈史 一般会員

議長選出：() 会員

定足数の確認：845名×10分の1以上 = 85人以上

() 名

当日(ZOOM参加含)_____人 + 委任状(____)人 + 書面議決書(____)人

目的事項

報告事項

- I. 2019年度（一般社団法人第IV期）事業報告
（和文誌，英文誌編集，行事，広報，渉外，庶務, Elements, 会員, その他）
- II. 2020年度（一般社団法人第V期）事業計画書及び収支予算などの件
- III. その他

決議事項

- I. 第1号議案 2019年度（一般社団法人第IV期）事業報告，決算承認の件
- II. 第2号議案 役員（理事、監事）選任の件

資料: 2019年度定時総会資料 決算及び事業報告

1. 2020年度収支予算(19頁)
2. 2019年度決算報告
 - 1) 貸借対照表(20頁)
 - 2) 正味財産増減計算書(21頁)
 - 3) 財務諸表に対する注記(22頁)
 - 4) 附属明細書(22頁)
3. 監査報告書(25頁)

授賞式

- 一、日本鉱物科学会賞授与
- 一、渡邊萬次郎賞授与
- 一、日本鉱物科学会論文賞授与
- 一、日本鉱物科学会研究奨励賞授与
- 一、日本鉱物科学会応用鉱物科学賞授与
- 一、櫻井賞授与
- 一、JMPS学生論文賞授与

報告事項

I. 2019年度事業報告 (一般社団法人第IV期 2019年8月1日～2020年7月31日)

榎並 正樹 会長 挨拶

一言ご挨拶申し上げます。

まず、恒例により、一般社団法人日本鉱物科学会が定款に定める事業の概要を確認します。

第4条によれば、本会は、第3条で定めるように鉱物科学及びこれに関連する諸分野の学問の進歩と普及をはかることを目的としており、それを達成するため、次の事業を行うとあります。

- (1) 和文誌(岩石鉱物科学)、英文誌(Journal of Mineralogical and Petrological Sciences)、その他の冊子版、電子版による発行
- (2) 総会、講演会、研究会、研究部会、その他学術に関する集会及び行事の開催
- (3) 研究の奨励及び業績の表彰
- (4) その他本会の目的を達成するために必要な事業

2019年度は一般社団法人日本鉱物科学会として第IV期の事業報告になります。不測の事態が起こったり、これまで経験したことのない社会情勢が今なお続く一年でしたが、皆様のご協力のもと、お陰様で法人としての学会事業を執行することができました。第IV期を終え、ここに御礼申し上げます。

昨年9月に九州大学で開催された2019年年会の際には、台風の影響により一部プログラムの変更を余儀なくされました。しかし、九州大学LOC、行事委員会そして会員各位のご協力に拠り、年会行事を遂行することができました。また、年明け以降続くCOVID-19禍により、学会諸行事の新しい運営方法を模索することが求められました。これに関しましても、多くの方々のご努力により、ここに年会および総会のオンライン開催にこぎ着けることができました。改めてお礼申し上げます。

今年会および総会は、今後の新しい学会運営方法に考えるうえでの一里塚となりました。来年度は、新しい執行部のもと今後の学会のあり方を会員の皆様と一緒に考えて行くことになります。皆様のさらなるご協力をお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

以下の個別の事業状況については、各業務を一任している各担当者から報告します。

(1) 和文誌(岩石鉱物科学)、英文誌(Journal of Mineralogical and Petrological Sciences)、その他の冊子版、電子版による発行事業

[1] 和文誌(岩石鉱物科学)編集報告 (長瀬和文誌編集幹事・理事)

1. 2020年8月29日第4回理事会報告

<編集状況報告 2020年8月28日現在>

- 1) 編集状況報告: 発行状況:49巻2号掲載予定: 受賞研究紹介1編(早期公開中)、新刊紹介1件
- 2) 現在査読中論文: 2編
- 3) 2020年9月オンライン年会開催中にGKK編集委員会の開催はしない。

2. 2020年5月23日第2回理事会報告

3号分	件数	頁
原著論文	1件	10p
短報	0件	0p
総説	0件	0p
資料・解説	7件	61p
訂正	0件	0p
新刊紹介	4件	2p
ニュース(他学会案内、教官公募等)		0.5p
投稿規定		3p
学会記事(理事会・総会議事録)		44.5p
その他の記事		0p
追悼文		2p
総目次		2p
広告	1件	1p
白頁		2p
今年度3号分合計		42.6p/号
昨年度3号分合計		48.6p/号

岩石鉱物科学 48巻3号, 4号, 49巻1号(3号分)掲載内容
(2020年5月21日現在)

1. 編集状況報告:

(1) 発行状況:

49巻1号: 受賞紹介3編, 年会案内など掲載 2020年5月15日発行
49巻2号(発行未定) 受賞紹介1編予定

(2) 現在査読中論文: 1編

2. 将来企画委員会からの勧告内容について今後検討予定。

・和文誌 GKK は、1ページあたり 2500 円(白黒)を、英文誌 JMPS と同等(4000 円)に是正。

・刊行ペースの見直し(年4回から年2回へ、あるいは電子版の随時配信と冊子体の廃止など)で経費抑制を検討すべきと GKK 委員会へ勧告する。

上記勧告内容について6月に GKK 編集委員会でメール審議を実施する。

3. 2019年9月21日第1回理事会報告

4号分	件数	頁
原著論文	2件	38p
短報	0件	0p
総説	0件	0p
資料・解説	9件	71p
訂正	1件	1p
新刊紹介	3件	2.5p
ニュース(他学会案内等)		0.5p
投稿規定		9p
学会記事(理事会・総会議事録)		51p
その他の記事		2p
追悼文		1p
総目次		3p
広告	4件	3p
白頁		3p
今年度4号分合計		46.5p
昨年度4号分合計		53p/号

<<岩石鉱物科学 47巻3号, 4号, 48巻1号, 2号(4号分)>
(2019年8月29日現在)

2019年 GKK 編集委員会開催報告

日時: 2019年9月20日(金) 12:00-12:30 場所: 九州大学伊都キャンパス イースト1号館 A-117

1) 編集状況報告:

発行状況:48巻2号(6月5日発行済み)受賞研究紹介2編, 日本新産鉱物情報, 新刊紹介, 2019年年会お知らせ

48巻3号(10月初め発行予定): 原著論文1編, 資料1編, フィールド紹介1編, 追悼文, 新刊紹介3編他

2) 現在査読中論文: 0編

<審議事項>

2. 議案

1) 編集委員の交代について

定年による退任者: 牧野州明, 藤縄明彦, 西戸裕嗣, 木村純一
新規交代委員:

2) 投稿論文無しの現状について

3) その他

【2】 英文誌 (JMPS) 編集報告 (吉朝英文誌編集幹事・理事)

1. 2020年8月29日第4回理事会報告

- 1) 投稿数状況: 5月24日以降11編 原著論文4編 (インド1編), Letter 2編, レジエクト2編 (ベトナム1編),
[参考:表1] 投稿体裁確認中3編 (中国2編, エチオピア1編)
- 2) 編集状況: 早期公開中1編, 印刷中1編, 受理論文6編, 査読中9編 返却中1編
- 3) 発行状況: 115巻3号 (6月号) 電子ジャーナルJune 24, 2020公開中, 冊子6月27日発送済
[参考:表2]115巻4号 (8月号) 電子ジャーナルAugust 18, 2020公開中, 冊子8月21日発送済
115巻4号(10月号) 早期公開中1編, 初校ゲラ中1編, 受理論文印刷準備中4編
115巻5号(12月号) 受理論文2編

[参考:表1] WEBシステム利用後の投稿数

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
Jan	3	2	2	5	2	4	7	5	5
Feb	2	2	1	2	2	0	2	1	0
Mar	2	0	4	2	2	7	3	1	1
Apr	2	3	1	5	3	12	5	5	3
May	4	0	3	5	4	3	4	3	1
Jun	12	6	9	4	3	5	2	3	3
Jul	3	3	8	9	12	9	6	6	5
Aug	5	2	1	7	1	2	2	12	3
Sep	2	1	4	5	2	2	4	2	
Oct	14	11	16	9	3	4	3	10	
Nov	5	4	4	5	8	9	18	5	
Dec	3	2	6	5	2	4	2	5	
Total	57	36	59	63	44	61	58	58	21

[参考:表2] 114巻4号(8月)~115巻3号(6月)(2020年8月28日現在)

6号分	件数	20/8/28	19/8/28	18/9/20	17/7/31	16/7/31
Reviews	5件	60p		75 p	0	3 p
Articles	28件	337p	260 p	268 p	243 p	374 p
Letters	8件	45p	37 p	33 p	76 p	12 p
Technical	0件	0	11 p	11		
Editorial		2p		1 p	1 p	1 p
Errata		1p			1 p	
規程		4p	5 p	5 p	6 p	4 p
Index		4p	5 p	4 p	4 p	4 p
Contents		4p	5 p	4 p	6 p	4 p
白頁		1p	3 p	1 p	1 p	2 p
合計頁		458 p 6号分	326 p 6号分	402 p 6号分	338 p 6号分	404 p 6号分
1号平均頁		76 p	54 p	67p	56.3 p	67.3 p

4) 2019 JMPS Impact Factor: 0.764

(2018⇒1.472, 2017⇒1.030, 2016⇒0.409, 2015⇒0.648, 2014⇒0.742, 2013⇒0.656, 2012⇒0.589)

How is Journal Impact Factor Calculated?

Citations in 2019 to items published in 2017(32) + 2018 (23) 55 = 0.7638

Number of citable items in 2017 (38) + 2016 (34) 72

5) 2020年9月16日18:00~19:00 2020年第2回JMPS編集委員会ZOOM開催予定

審議事項: 新副編集委員長, 編集委員の交代, 継続審議 (カラー印刷, ページチャージ単価, 割引率など。)

2. 2020年5月23日第2回理事会報告 2020年5月23日(土)11:00-11:45に2020年第1回JMPS編集委員会 (WEB会議)開催報告。

報告事項

1. JMPS現状報告 (2020年5月21日現在)

- 1) 投稿数状況: [参考: 表1]
- 2) 編集状況: 早期公開中2編, 受理論文7編 (8, 9月号予定), 査読中:10編 返却中: 3編,
- 3) 発行状況: 115巻2号(4月号) May 02, 2020 Release, 5月14日発送済

Special issue: 'Indian continent' Tracking plate tectonics and related events in the Indian continent from Archean to recent times

115巻3号 (6月号) 原著論文6編, Letter 1編 (早期公開2編 印刷中5編 6月末WEB公開予定)

115巻4号 (8月号) 受理論文6編 印刷準備中 115巻5号(10月号) 受理論文1編

[参考: 表1] WEBシステム利用後の投稿数

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
Jan	3	2	2	5	2	4	7	5	5
Feb	2	2	1	2	2	0	2	1	0
Mar	2	0	4	2	2	7	3	1	1
Apr	2	3	1	5	3	12	5	5	3
May	4	0	3	5	4	3	4	3	1
Jun	12	6	9	4	3	5	2	3	
Jul	3	3	8	9	12	9	6	6	
Aug	5	2	1	7	1	2	2	12	
Sep	2	1	4	5	2	2	4	2	
Oct	14	11	16	9	3	4	3	10	
Nov	5	4	4	5	8	9	18	5	
Dec	3	2	6	5	2	4	2	5	
Total	57	36	59	63	44	61	58	58	10

[参考: 表2] 114巻4号(8月)~115巻2号(4月)(2020年5月21日現在)

論文種類	今回件数	2020/5/21	2019/5/24	2018/5/18	2017/5/18	2016/5
Reviews	5件	60 p		75 p	0	3 p
Articles	22件	268 p	260 p	246 p	174 p	239 p
Letters	7件	39 p	37 p	44 p	54 p	12 p
Technical			11 p			
Editorial		2 p		1 p	1 p	1 p
Errata						
規程		4 p	5 p	5 p	4 p	3 p
Index		4 p	5 p	4 p	4 p	4 p
Contents		4 p	5 p	4 p	6 p	4 p
白頁		1 p	3 p	1 p	1 p	2 p
合計頁		382 p 5号分	326 p 6号分	380 p 6号分	244 p 4号分	268 p 4号分
1号平均頁		76.4 p	54 p	63 p	61 p	67 p

- 4) 2018 JMPS Impact Factor: 1.472 (2017⇒1.030, 2016⇒0.409, 2015⇒0.648, 2014⇒0.742, 2013⇒0.656, 2012⇒0.589)

How is Journal Impact Factor Calculated?

$\frac{\text{Citations in 2018 to items published in 2016 (74)+ 2017(32)}{\text{Number of citable items in 2016 (34) + 2017 (38)}} = 1.472$

$\frac{106}{72}$

2. 特集号発行報告: 115巻2号(4月号) 掲載頁160頁, 電子ジャーナル著者希望全図カラー, 冊子印刷11頁カラー

<Preface of the special issue on 'Indian continent'>

- 1) Tracking plate tectonics and related events in the Indian continent from Archean to recent times.

----K. DAS, J. ANDO and T. INOUE

<Continental crustal dynamics - old to recent tectonic activities>

- 2) Deformation and metamorphic history of the Singhbhum Craton vis-à-vis peripheral mobile belts, eastern India: implications on Precambrian crustal processes.

----G. GHOSH and S. BOSE

- 3) Geological evolution of the northern and northwestern Eastern Ghats Belt, India from metamorphic, structural and geochronological records: An appraisal.

----P. GANGULY and A. CHATTERJEE

- 4) Structural architecture and geological relationships in the southern part of Chitradurga Schist Belt, Dharwar craton, South India.

----L. SREEHARI and T. TOYOSHIMA

- 5) The Indo-Eurasia convergent margin and earthquakes in and around Tibetan Plateau.

----Y. WANG, Y. DENG, F. SHI and Z. PENG

- 6) Neotectonic fault movement and intraplate seismicity in the central Indian shield: A review and reappraisal.

----A. CHATTOPADHYAY, D. BHATTACHARJEE and S. SRIVASTAVA

- 7) Zirconium in rutile thermometry from garnet granulites of the Jijal complex of Kohistan arc,

----NW Himalaya. C. NAKAZAWA, H.U. REHMAN, H. YAMAMOTO and T. ZAFAR

<Interaction between life, sediment and water, and evolution of the early atmosphere>

- 8) A review of biotic signatures within the Precambrian Vindhyan Supergroup: Implications on evolution of microbial and metazoan life on Earth.

----A. CHOUDHURI, S. BANERJEE and S. SARKAR

- 9) Clue on ocean redox condition from trace element and rare earth element(REE) composition of iron formation and carbonate rocks from the late Paleoproterozoic Morar

Formation, Gwalior Group, central India.

----P.P. PAUL, P.P. CHAKRABORTY, F. SHIRAIISHI, K. DAS, A. KAMEI and S. BHATTACHARYA

- 10) Formation of intracratonic Gondwana basins: Prelude of Gondwana fragmentation?

----P. DASGUPTA

<Mantle-crust interaction: geochemical and rheological appraisals>

- 11) Mineralogy and petrology of shoshonitic lamprophyre dykes from the Sivarampeta area, diamondiferous Wajrakarur kimberlite field, Eastern Dharwar craton, southern India.

----P. PANKAJ, R.K. GIRI, N.V. CHALAPATHI RAO, R. CHAKRABARTI and S. RAGHUVANSHI

- 12) Serpentinite enigma of the Rakhabdev lineament in western India: Origin, deformation characterization and tectonic implications.

----D.P. SARKAR, J. ANDO, K. DAS, A. CHATTOPADHYAY, G. GHOSH, K. SHIMIZU and H. OHFUJI

3. その他

審議事項

1. 2019JMPS学生論文賞結果報告と審議

JMPS学生論文賞選考委員会 委員長 永井 隆哉

本年度のJMPS学生論文賞受賞候補論文につきまして当委員会にて検討した結果、下記の2論文を推薦することになりましたので、選考理由とともにご報告申し上げます。

【第9回】対象論文: Metamorphic pressure-temperature conditions of the Lützow-Holm Complex of East Antarctica deduced from Zr-in-rutile geothermometer and Al₂SiO₅ minerals enclosed in garnet. 114-6, 267-279, 2019

著者: Kota SUZUKI and Tetsuo KAWAKAMI

学生会員筆頭著者: 鈴木康太 投稿時: 京大・修2

推薦理由: 南極東部、Lützow-Holm複合岩体の高変成度の泥質片麻岩に産するザクロ石中のルチル包有物とマトリックスに含まれるルチルに対して、含有するZrを用いた地質温度計を適用、変成温度圧力条件を検討した研究である。詳細な試料観察及びEPMAを用いた化学分析に基づき、マトリックス中のルチルが示す変成温度圧力は従来この岩体の変成履歴として考えられている条件とほぼ同等であるが、ザクロ石中のルチルが示す温度圧力条件は、それより有意に高い変成度であることを見出し、本地域の変成履歴の再検討の必要性を提起した。本論文は極めて高いレベルにあり学生論文賞に相応しいと判断される。

【第10回】対象論文: Formation of triple-layer coronas between corundum and hornblende from the Lützow-Holm Complex at Akarui Point, East Antarctica. 113- 2, 68-81, 2018.

著者: Yuki MORI and Takeshi IKEDA

学生会員筆頭著者: 森 祐紀 投稿時: 九大・博1

推薦理由: 南極東部、Lützow-Holm複合岩体の角閃岩中に見られるコランダムを取り巻く三重のコロナ層の成因について研究を行ったものである。詳細な化学分析と化学量論計算から変成時の化学反応と物質移動を定量的に解析し、コロナ層が時計回りの温度圧力経路を経て、後退変成作用時に形成されたことを明らかにした。本論文は極めて高いレベルにあり学生論文賞に相応しいと判断される。

2. JMPS学生論文賞対象範囲の件

今回の審査対象論文は、学生会員著者全員として11編となりました。「審査対象から外してほしい場合のみ、チェックする」項目をWEB上に作成することの前回委員長提案がありましたが、当学会の学生会員の投稿が多くないこともあり、その中で外す項目作成しますと、以前のエントリーしない希望と同じで、外してほしい希望が多くなり、審査対象学生会員論文の増加は見込めないことを、その後委員長に説明しました。

今回の審査で、審査対象論文を集計して、以下の様になりましたので、今後も「学生会員著者全員」を審査対象論文とすることについて再度ご検討いただきたい。

今回学生会員であることでの対象論文合計11編で内訳は以下の通りです。

旧システムでエントリー論文	4編
旧システムでエントリーしない論文	5編 (エントリーしないが多い)
新システム選択欄なし	2編

合計11編

3. 委員選任: DAS Kaushik会員をJMPS編集委員会委員として委員長から指名, 委員会の承認

4. 2020年JpGU Letter募集と2020年年会Letterの募集の件

JpGUオンライン開催のため募集するかどうか, 当学会年会もオンラインになった場合どうするか。

5. 将来企画委員会, 会計問題WGからの答申を受けてJMPSで検討する案件

- (1) カラー印刷のあり方 (電子版のみのカラー化対応, カラー冊子体希望者への対応) とカラーチャージについて再検討を要する。
(2) 学会誌経費の財源について, 会員負担 (年会費・購読費) と著者負担 (ページチャージ・カラーチャージ) の比率を英文誌、和

文誌それぞれで精査するべきである。

6. ページチャージ割引率30%を15-20%へ減額する継続審議
7. 冊子体はモノクロで電子ジャーナルをカラーにする継続審議
8. その他

3. 2019年9月21日第1回理事会報告 2019年第2回JMPS編集委員会開催報告
 日時：2019年9月20日（金）13：00-13：30 場所：九州大学伊都キャンパス イースト1号館 A-117

<報告事項>

1. 新編集委員紹介
2. JMPS現状報告（2019年9月16日現在）
 - 1) 投稿数状況：5月26日以降 原著論文7編（ロシア1編，中国1編，Letter 9編（2019JpGU大会講演Letter募集：申込12件中投稿7編）（インド5編）
 - 2) 編集状況：早期公開中0編，受理論文4編，査読中：17編 返却中：11編，
 - 3) 発行状況：114巻3号(6月号)(7月11日公開) 114巻4号(8月号) 原著論文5編，Letter 1編 9月末WEB公開予定
114巻5号(10月号) 受理論文4編印刷準備中
特集号投稿5編

[参考:表1] WEBシステム利用後の投稿数

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
Jan	3	2	2	5	2	4	7	5
Feb	2	2	1	2	2	0	2	1
Mar	2	0	4	2	2	7	3	1
Apr	2	3	1	5	3	12	5	5
May	4	0	3	5	4	3	4	3
Jun	12	6	9	4	3	5	2	3
Jul	3	3	8	9	12	9	6	6
Aug	5	2	1	7	1	2	2	12
Sep	2	1	4	5	2	2	4	2
Oct	14	11	16	9	3	4	3	
Nov	5	4	4	5	8	9	18	
Dec	3	2	6	5	2	4	2	
Total	57	36	59	63	44	61	58	38

[参考:表2] 113巻4号(8月)～114巻3号(6月)(2019年8月28日現在)

6号分	件数	19/8/28	18/5/18	17/5/18	2016/5	2015/5
Reviews	0件		75 p	0	3 p	0 p
Articles	25件	260 p	246 p	174 p	239 p	125 p
Letters	7件	37 p	44 p	54 p	12 p	41 p
Technical	1件	11 p				7 p
Editorial			1 p	1 p	1 p	1 p
Errata						0 p
規程		5 p	5 p	4 p	3 p	3 p
Index		5 p	4 p	4 p	4 p	4 p
Contents		5 p	4 p	6 p	4 p	4 p
白頁		3 p	1 p	1 p	2 p	1 p
合計頁		326 p	380 p	244 p	268 p	186 p
		6号分	6号分	4号分	4号分	4号分
1号平均頁		54 p	63 p	61 p	67 p	46.5 p

- 4) **2018 JMPS Impact Factor: 1.472** (2017⇒1.030, 2016⇒0.409, 2015⇒0.648, 2014⇒0.742, 2013⇒0.656, 2012⇒0.589)

How is Journal Impact Factor Calculated?

$$\frac{\text{Citations in 2018 to items published in 2016 (74) + 2017(32)}{\text{Number of citable items in 2016 (34) + 2017 (38)}} = \frac{106}{72} = 1.472$$

3. 2019年年会発表講演論文募集

投稿申込締切日：2019年10月15日(火) 締切日厳守，原稿提出締切日：2019年11月25日(月) 締切日厳守

4. 特集号企画状況報告

The tentative title: Tracking plate tectonics and related events in the Indian continent from Archean to recent times.

Guest editors: Kaushik Das, Jun-ichi Ando

5. その他

審議事項

1. 副委員長選任

2. 学生論文賞対象範囲の件まとめ確認

2019/5/25のJMPS委員会で「学生会員であること」は必須ですが，WEB上で「学生論文賞審査にエントリー」する項目を削除することが基本的な方針となった。

エントリー削除から，過去に遡りエントリーしていない学生会員も対象とする意見がありました。

つまり，「エントリーする」の項目を削除して，学生会員の投稿論文をすべて審査対象とする。2018年であれば審査対象論文数は11編になり4編から大幅に増加する。

●想定される結果 対象論文数は確実に増加。【2018年ベースで11編】懸念事項はひとまず解決。

もう1点，エントリーは項目削除するが，別途，「審査対象から外してほしい場合のみ，チェックする」項目をWEB上に作成する方向にする。

また，会員である必要がありますので「直ちに入会しましょう」くらい入れるのはどうか？

3. ページチャージ30%割引見直しの件

4. 共著者多数の引用文献記載の件

著者からの質問-引用すべき文献の一つは著者が2人もあり，すべて列記するとかなりスペースを取ってしまいます。

このように極端に共著者が多い文献の引用の場合，「その他何人」というような表記の便法というのはJMPSにはありませんよね。原稿作成を見ても書かれていないのではないと思いますが特にLetterでは掲載頁にかかわるのでご検討をお願いします。

5. 投稿論文不足の件

6. その他

(2) 総会、講演会、研究部会、その他学術に関する集会及び行事の開催事業

[1] 行事報告・年会報告(磯部行事幹事)

1. 一般社団法人日本鉱物科学会 2019年年会・総会

日程：2019年9月20日(金)～9月22日(日) 会場：九州大学 伊都キャンパス イーストゾーン(イースト1号館)

<一般社団法人日本鉱物科学会 2019年年会・総会報告>

2019年9月20日(金)より9月22日(日)まで，九州大学 伊都キャンパス イーストゾーン(イースト1号館)において，一般社団法人日本鉱物科学会2019年年会・総会が開催され，セッション形式による口頭講演，ポスター講演，懇親会，定時総会，定例理事会，各種委員会，学会賞等受賞講演が行われた。

2019年年会ではセッションは，スペシャルセッション(3件)，レギュラーセッション8件(R7: 岩石・鉱物・鉱床一般は資源地質学と共催)であった。

年会での発表講演総数は222件(口頭124件,ポスター98件)であった。年会参加者総数は270名(一般会員168名+学生会員62名+非会員一般6名+非会員学生25名+モンゴル招待者9名)であり,懇親会参加者総数は124名(一般111名+学生13名)であった。

また,一般社団法人定時総会が行われ,出席社員数159名[本人出席82人+代理人行使56人+書面権行使21人]があり,社員数880名の約18%の出席となり,無事決算の承認が行われ,続いて各賞の授賞式が執り行われた。今年は2011年9月10日にMOUとしてモンゴル資源地質学会と当学会の学術交流協定調印が行われて以後,既に有効期限の5年が過ぎたので,モンゴル資源地質学会(Mongolian Society of Economic Geologists(MonSEG))Dr. M. Ochirbat会長と一般社団法人日本鉱物科学会榎並正樹会長により,両学会の学術交流協定の調印が更新された。

懇親会は構内のイーストゾーン・ビッグスカイで開催され,参加者同士の親睦がおおいに深められた。展示業者は6社であった。

なお,大変残念なことに,最終日の9月22日(日)の午後の講演は,台風接近のため,13時までには繰り上げて実施することとなり,また13:00以降のクロージングセレモニーなどの行事は中止となり,安全を考慮して年会を13時で終了した。無事に終了できたことは九州大学LOCの皆様のご尽力のお陰である。

今年の「研究発表優秀賞」受賞者は,審査の結果下記4名が決定し,今年度はクロージングセレモニーが台風のため中止となったので後日賞状を郵送することとなった。また,次期年会の紹介もなされた。受賞者は,後記(3)研究の奨励及び業績の表彰に記載する。

LOCのご協力をいただき,2019年9月23-24日に,阿蘇・九重地域の火山と地熱帯への巡検と,23日には見学会:九州大学「高標本」と工学部「列室」が実施された。

また,平成28年9月に「ひすい(ひすい輝石及びひすい輝石岩)」を国石として選定した関連事業として,今年2度目の一般普及講演「日本の国石・ひすい」を九州大学西新プラザで行い,遠くからもご参加いただき好評であった。

2. 2019年9月21日第1回理事会審議

「当該年会の2年前の理事会において,会長が年会開催候補地および運営委員長候補者を提示して承認を得る。」ことから,行事委員会から年会開催候補地案として報告提案された,以下について審議。

- 1) 2021年開催地候補: 広島大学
- 2) LOC委員長候補者: 井上 徹会員

3. 2020年5月23日第2回理事会報告

1) 日本地球惑星科学連合2020年大会JpGU-AGU Joint Meeting 2020

日程が延期された: 2019年7月12日(日)~16日(木) 開催方法: オンライン大会となった。

2) 日本鉱物科学会 2020年年会・総会は現時点で年会HPで公開中の以下の内容について報告。

日程: 2019年9月16日(水)~18日(金)

会場: 東北大学青葉山新キャンパス 環境科学研究科本館, 青葉山 commons

〒980-8572 仙台市青葉区荒巻字青葉468-1

(1) 日本鉱物科学会一般普及講演「日本の国石・ひすい」

9月13日(月) 13:00~スリーエム仙台市科学館(仙台市青葉区台原森林公園4番1号)

(2) 参加登録費について

昨年から利用したアトラス社の講演申込から講演要旨公開まで一貫したシステムConfitの料金が昨年秋から3年契約割引で年67万円(九州大学での費用は60万円)と7万円の値上げとなり,行事委員会とLOC委員長で協議した。

差額は参加者に負担していただくこととなり以下の様に値上げをすることにした。

事前料金:	一般会員	7,500円(500円値上げ)	学生会員	3,500円(値上げ無し)
	非会員(一般)	12,000円(1,000円値上げ)	非会員(学生)	6,000円(500円値上げ)
当日料金:	一般会員	8,500円(500円値上げ)	学生会員	4,000円(値上げ無し)
	非会員(一般)	13,000円(1,000円値上げ)	非会員(学生)	6,500円(500円値上げ)

(3) 演申込み期間: 2020年6月23日(火)10:00 ~ 7月14日(火)20:00まで(WEBサイト利用)

なお, JpGU-AGU Joint Meeting 2020の開催延期に伴い, 2019年7月12日(日)~14日(木)まで重複することになる。

3) その後のコロナ感染拡大の影響で, 2020年年会開催方法について行事委員会, LOC, コンピーナー等と協議をした。

<審議事項>

1. 日本鉱物科学会 2020年年会開催についての検討事項まとめ

1) 予定通りの現地開催

・利点: 対面での討論を含む通常通りの発表機会が確保できる。

・要対応、確認事項:

会場校(東北大学)として, 9月の会合開催は認められるか。会場での密閉、密集、密接を避けることは可能か。

口頭発表会場、ポスター会場の席数、面積に余裕を持たせることは可能か。仙台への移動、宿泊等の状況についても、通常と変わらない状況か。一般普及行事は開催可能か。

・問題点: 研究活動を進められなかった機関もある中, JpGUとの間隔が例年の半分程度となる。多くの大学で授業日程が変更されている。発表数、参加者数を確保できるか。年会会計にも影響する。

2) 予定通りの日程でのオンライン開催

・利点: 感染状況の変化: に(あまり)依存せずに発表機会が確保できる。

・要対応、確認事項: どのような発表形式とするか。発表形式によっては, 追加費用が発生する。参加費をどのように設定するか。

・問題点: オンライン開催となったJpGUとの間隔が短く、発表数、参加者数を確保できるか。

3) 日程を延期し、年度内に現地開催

・利点: 対面での討論を含む発表機会が確保できる。JpGUとの間隔がある程度確保されるため、研究活動の進展による発表の増加が期待される。

・要対応、確認事項: 通常通りの行事が行えるほど感染状況の改善が期待できる日程をどう設定するか。

・問題点: 現時点では不確定要素が多い。大学の授業日程と重複するためLOCへの負担が大きい。発表数、参加者数を確保できるか。

(年度内延期のオンライン開催とした場合でも、通常規模の開催を目指すとする以上問題点は同様となる)

4) 1年延期し、開催地を繰り下げる

・利点: 現状では、最も安全な選択肢かもしれない。

・要対応、確認事項: 本年度、来年度予定のLOCからの承認が必要。年度内の日程(例えば11月初旬)で、小規模なオンライン開催を設定して発表機会を確保する必要はないか。

・問題点: 本年度の発表機会が失われる会員、学生が生ずる。学会活動に悪影響は生じないか。

2. 上記結果によって2022年年会開催地について

<2021年年会(広島大学)運営委員名簿提出(井上2021LOC委員長・理事)>

開催日時: 2021年9月頃(未定)

開催場所: 広島大学 東広島キャンパス 理学部棟

運営委員名簿（予定）

井上 徹（委員長）、片山 郁夫（副委員長）、安東 淳一、柴田 知之、早坂 康隆、宮原 正明、川添 貴章、DAS Kaushik、大川 真紀雄、柿澤 翔、芳川 雅子、横山 正、前田 誠、河田 尚美 以上14名

- 1) 2021年開催の場合、理学部講義室は夏休みまでに手配（無料）
- 2) 助成金の申請予定（東広島市、10万円）

4. 2020年6月29日第3回理事会報告

<本鉱物科学会2020年オンライン年会について>

第2回定例理事会の審議の結果、本年の年会は東北大学現地での開催は行わないことになり、現地開催に代わる行事についてオンライン発表を含めて検討することが承認されました。

その後、ZOOM会議を開催して、5月28日午前10時-11時に関係者*がアトラスからオンライン開催方法の説明を受け、11時から12時に関係者間で意見交換をし、それ以降の頻繁なメールやり取りの結果、今年は、下記要領にて「日本鉱物科学会2020年オンライン年会」として開催することになりました。

以下内容についてご審議をお願いします。*関係者（榎並、宮脇、平島、磯部、河上、片山、土屋、岡本）

1) 開催日程（予定）

2020年9月16日（水）、17日（木） オンラインセッション

18日（金）2019年度定時総会・受賞講演

18日の2019年度定時総会・受賞講演については、第1号議案で審議される。

2) 日程一覧

7月20日（月）～31日（金） 演題及び発表セッション申込み
8月上旬 プログラム編成、オンライン発表採択通知
8月31日（月） 要旨提出締切、投稿料払込締切（厳守）
9月上旬 プログラム、要旨公開
9月10日 オンライン年会参加申し込み締切
9月11日以降 ZoomミーティングID/パスワード通知

3) 開催セッション: 5月2日付け本会メールニュースでお知らせいたしました、すべてのセッションにて発表申込みを受け付けます。

但し、申込件数、プログラム編成の都合により、複数セッションを合同で開催する場合があります。

4) 発表形態: 発表形態は要旨公開を基本とし、希望される方によるオンライン口頭発表を開催します。

ポスター発表に相当するセッションは行いません。なお、プログラムは口頭発表の必要性などの事情を考慮して編成します。時間の制約により、ご希望に添えない場合は要旨の公開になります。ご了承ください。

5) 発表申込み方法: 申込みサイトを準備いたします。入力フォームに、演題、発表者、会員区分、連絡先メールアドレス、希望セッション及びオンライン口頭発表希望の有無を記入ください。申込み方法の詳細は、決まり次第お知らせします。

6) 投稿料: 会員 一般¥4000、学生¥2000 非会員 一般¥6000、学生¥3000

8月1日以降、31日（月）までに本会郵便振替口座へ送金して下さい。9月1日以降の送金は受け付けません。

期限までに払込が確認できない場合、発表は取り下げられたものとみなします。

郵便振替口座：02260-9-89602 加入者名：一般社団法人日本鉱物科学会

送金明細記入：「費用区分」、「会員区分」、「料金」、「住所、所属、氏名」、「投稿料領収書発行希望」など必要事項を必ず記載して下さい。*上記郵便振替送金以外の銀行送金の場合は、予めメールで上記内容を事務局にお知らせください。

7) 要旨提出方法: 要旨提出用のフォームからお送り下さい。詳細は追ってお知らせします。

8) オンライン発表について: Zoomミーティング参加のための機材、ネットワーク環境等は、発表者が準備するものとします。

9) オンライン年会参加申し込み方法: 発表者以外の参加希望者は、9月10日までに参加申し込みフォームから申込みください。詳細は追ってお知らせします。申込みが確認できた参加者にZoomミーティングID/パスワードを通知します。ミーティングID/パスワードは、参加者以外には知らせないようお願いいたします。Zoomミーティング参加のための機材、ネットワーク環境等は、参加者が準備するものとします。発表の録音、録画は禁止とします。

10) 費用の件:

収入：現在のところ投稿料のみ

支出：総会を含めたZoomの費用と、東北大でお借りする教室費用。（なお、年会HP、発表講演入力用FORMは学会の常備を利用させてもらうので無料）

例年のように年会の黒字は不可能ですが、支出を最小限に抑えるよう努力します。

しかし、万が一の場合は以下のガイドライン規定を利用させていただくこともあることを、ご承知おきいただきたい。

★ガイドライン

17. 年会の運営資金について

学会から現地運営委員会への年会の運営資金の拠出は継続するので、必要な場合は会計幹事に申し出ること。

5. 2020年8月29日第4回理事会報告

<2020年オンライン年会開催経過報告>

5月27日 5月23日の際2回理事会の審議を受け、2020年年会開催についての第1報をNo. 6メールニュース、WEBサイトで会員に報告。

6月23日 日本鉱物科学会2020年オンライン年会開催予定について第2報をNo. 8メールニュース、WEBサイトで会員に報告。

6月29日 第3回理事会にて、オンライン年会開催の件について審議、了承決定。

7月17日 会員宛メールニュースNo. 10にて、発表申込受付開始について告知

7月20日 発表申込み受付開始

7月31日 申込み締切を8月3日正午まで延長 会員宛メールニュースNo. 12にて告知

研究発表優秀賞審査は、オンライン口頭発表に限ることを追加掲載

8月3日 発表申込み締切 口頭発表46件(うち研究発表優秀賞審査エントリー21件) 要旨公開による発表 56件 計 102件

8月19日 発表者へ、要旨提出サイト案内を送付

8月24日 要旨提出サイト開設

以下、今後の予定

8月31日 要旨提出、投稿料送金締切

9月上旬 プログラム、要旨公開、参加申し込み受付開始

9月10日 参加申し込み締切

9月11日以降 ZoomミーティングID/パスワード通知

9月11または12日 コンピーナー/座長を含む、Zoomミーティングリハーサル詳細は検討中

< 2020年8月29日第4回理事会審議事項 >

2021年、2022年年会開催地について（榎並会長・説明磯部行事幹事）

- (1) 2021年年会は、開催候補地の状況、日程等を検討した結果、2019年度第1回理事会で決定の通り、広島大学を開催地として開くこととしたい。
- (2) 2022年年会については、東北大学での開催が困難である見通しである。2020年度第1回理事会において審議頂けるよう、開催候補地について現在検討中である。

【2】広報報告（大藤広報幹事・理事）

1. 2020年5月23日第2回理事会報告

- (1) 広報委員会委員の主な役割分担：HPの更新作業の対応：梶谷浩委員（を中心に委員全員で対応）JpGUブース展示：斉藤哲委員（および学会参加の委員で対応）、Twitterの管理運営：石橋秀巳委員、Facebookの管理運営：浜田麻希委員、その他諸々の対応：大藤委員長。
- (2) 会員へのML送信を実施した（2020年は現在までに5件）。内容は、学会事務連絡、公募案内、関連学会案内など。
- (3) Face bookとtwitterリンクと学会HPのシンクロ、随時更新強化。「一家に1枚：鉱物-地球と宇宙の宝物」ポスター（第2版）の紹介ビデオ（宮脇会員作成）のHP、Face book、twitterへの掲載（2020年4月）
- (4) 2020年連合大会の日本鉱物科学会ブース展示→新型コロナウイルスの影響で大会がオンライン開催となったため、例年のオンサイトブース展示はキャンセル（出展料は返金済み）。代替としてJpGU事務局ではバーチャル（オンライン）展示を検討しており、そのサービス内容などに関する意見交換会（ZOOM）会議が5/8に行われ、大藤委員長が対応。その後、当学会としてバーチャル展示へ出店するかどうかを現在広報委員会において検討中。なお、出展料はオンサイトの場合と同様に3万円（税別）の見込み。来年度以後、JpGUが通常開催となった場合も、バーチャル展示は今後のブース展示の一形式としてスタンダード化される可能性が高い。
- (5) 奥山会員を中心に改訂いただいた「一家に1枚：鉱物-地球と宇宙の宝物」の第2版が発行され、A1判およびA2判が事務局に到着。今後の広報活動に活用予定。
- (6) 現代の広報展開において重要度が高くなってきている学会HPの掲載情報や表示の仕方の見直し、改善案について、広報委員会の中で議論を行い、改善案をまとめた。近く、事務局とも相談の上、対応を検討したい。

2. 2020年8月29日第4回理事会報告

- 1) 会員へのML送信（5/24以降8件）を実施した。内容：年会（オンライン）開催関係、総会予告、学会役員候補者の公示のお知らせ、役員選出WEB投票のお知らせ、関連学会案内、公募情報等。
- 2) 2020連合大会のバーチャルブース展示を行った。iPosterを活用した学会の活動内容（活動概要、学会誌、年会、入会案内など）の紹介や、会員が作成した岩石鉱物科学に関連する教育・研究紹介動画（「岩石を薄片にしてみよう!」、「某大学の野外実習」、「鉱物学者の研究室にお邪魔します!」、「パホイホイ溶岩（ハワイ）」など）の配信などを行った。また、Twitter、Facebookと連携してオンライン会期中のiPosterの更新内容なども随時発信した。今後、これらの動画コンテンツなどを活用した新しい広報・普及方法についても検討してゆきたい。
- 3) 奥山康子会員より一家に1枚「鉱物」ポスター（新版）700枚を事務局に寄贈いただいた。この場をお借りしてお礼申し上げたい。なお、ポスターは、教育普及委員会とも連携して今後の学会の広報・普及活動に活用したい。
- 4) 映像制作会社より、TV番組の作成に関する問い合わせが事務局を通じて2件あった。いずれも詳細内容を問い合わせた段階でやり取りはストップ。今後、このような一般の方や情報提供などに関する依頼があった場合の対応について、広報委員会で窓口対応できるような体制を整えたい。

【3】渉外報告（森下渉外幹事・理事）

1. 2020年5月23日第2回理事会報告

- (1) JpGU学会展示での書籍展示の報告
今年のJpGUはWEB開催で、通常の展示は行わないため、今年は会員著書書籍の寄贈募集はしていない。
- (2) 「宝石切手」の発行に向けて
2019年6月6日に日本宝石協会事務局から当学会宛の連名依頼文書を受領。その際、渉外幹事森下が担当することとなる。
2019年10月31日に日本宝石協会事務局、大石さんから進捗状況報告メールあり。
2019年11月06日、提出書類の当学会紹介文書を修正して日本宝石協会事務局へ提出。
その後の情報はありません。

2. 2020年8月29日第4回理事会報告

日本宝石協会宝石切手委員会 松山明雄氏より2020年7月10日に「宝石シリーズ切手（仮称）」発行運動報告がありました。

連名団体：一般社団法人 日本ジュエリー協会、一般社団法人 日本鉱物科学会、宝石学会（日本）、
一般社団法人 日本宝石協会

2020（令和2年の予定）

日本ジュエリー協会を通じジュエリー議員連盟事務局にアプローチをしている。
ジュエリー議員連盟（会長：野田聖子衆議院予算委員長、元郵政大臣）へのアプローチ。
業界所轄官庁、経済産業省へのアプローチ、日本郵便株式会社へのアプローチ

【4】Elements報告（興野Elements幹事）

1. 2020年5月23日第2回理事会報告

- 既に6月号までの下記の原稿をElementsに入稿 現在8月号のトピックス記事を依頼中。10月、12月号は学会賞の紹介記事を掲載予定。
- 2020 No.1 2月号: From President（榎並会長）、Invitation to the JpGU Meeting 2019, JMPS Contents Vol.114, no.6, December 2019
 - 2020 No.2 4月号: Joint Graduate Program between Tohoku and Bayreuth University（東北大・中村美千彦さん）
JMPS Contents Vol.115, no.1, February 2020
 - 2020 No.3 6月号: Hunting mineral-centered life from deep rocky biosphere（東大・鈴木庸平さん）、
JMPS Contents Vol.115, no.2, April 2020
 - 2020 No.4 8月号（原稿締切 2020/5/29）:トピックス「地球科学におけるナノ秒時間分解X線回折法の応用」（KEK・高木壮太さん）
JMPS Contents Vol.115, no.3, June 2020
 - 2020 No.5 10月号（原稿締切 2020/7/14）: 学会賞、渡邊萬次郎賞、櫻井賞の紹介, JMPS Contents Vol.115, no.4, August 2020
 - 2020 No.6 12月号（原稿締切 2020/7/14）: 研究奨励賞、応用鉱物科学賞、論文賞の紹介, JMPS Contents Vol.115, no.5, October 2020

2. 2020年8月29日第4回理事会報告

2020年の10月号までの原稿はElementsに入稿済。12月号の原稿は10月1日に入稿予定。

- 2020 No.5 10月号 Japan Association of Mineralogical Sciences Award (奥地拓生会員, 小松一生会員)
Manjiro Watanabe Award (島崎英彦会員)
Sakurai Medal (栗林貴弘会員)
JMPS Contents Vol.115, no.4, August 2020
- 2020 No.6 12月号 (2020年10月1日入稿予定)
JAMS Award for Young Scientists (吉田健太会員, 杉浦悠紀会員)
JAMS Award for Applied Mineralogy (入船徹男会員)
JAMS Research Paper Award (興野純会員, 田村知也会員)
JMPS Contents Vol.115, no.5, October 2020

(3) 研究の奨励及び業績の表彰 (河上庶務幹事・理事)

【1】2019年度日本鉱物科学会賞表彰

第22回受賞者: 奥地 拓生 会員

業績題目: 水素を含む地球惑星内部物質の構造と拡散の研究

第23回受賞者: 小松 一生 会員

業績題目: 高压下中性子回折法の手法開発ならびに水素を含む鉱物の高压相転移の解析

【2】渡邊萬次郎賞表彰

第36回受賞者: 島崎 英彦 永年会員

【3】2019年度日本鉱物科学会論文賞表彰

第22回受賞論文

Title: Pressure-induced crystallization of biogenic hydrous amorphous silica. Journal of Mineralogical and Petrological Sciences, 112, 324-335, 2017.

Authors: Atsushi KYONO, Miho YOKOOJI, Takashi CHIBA, Tomoya TAMURA, Akihiro TUJI

受賞者: 興野 純会員, 田村知也会員

【4】2019年度日本鉱物科学会研究奨励賞表彰

第27回受賞者: 吉田 健太 会員

研究対象: 「沈み込み帯で生じる脱水流体やそれに関連する物質収支の研究」

第28回受賞者: 杉浦 悠紀 会員

研究対象: 「リン酸による炭酸カルシウム多形制御メカニズム解明と生体材料への応用」

【5】2019年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞表彰

第12回受賞者: 入船 徹男 会員

受賞題目: 「ナノ多結晶ダイヤモンドの合成とその多様な科学研究・新材料創製への応用」

【6】2019年度櫻井賞表彰

第(第45回) 受賞者 栗林貴弘 会員

対象鉱物: 日立鉱

【7】2019年度JMPS学生論文賞受賞論文表彰

第9回受賞論文: Kota SUZUKI and Tetsuo KAWAKAMI, Metamorphic pressure-temperature conditions of the Lützow-Holm Complex of East Antarc deduced from Zr-in-rutile geothermometer and Al₂SiO₅ minerals enclosed in garnet. 114-6, 267-279, 2019

受賞者: 鈴木康太 投稿時: 京大・修2

第10回受賞論文: Yuki MORI and Takeshi IKEDA, Formation of triple-layer coronas between corundum and hornblende from the Lützow-Holm Complex at Akarui Point, East Antarctica. 113-2, 68-81, 2018.

受賞者: 森 祐紀 投稿時: 九大・博1

【8】2019年年会研究発表優秀賞表彰

第50回受賞者 藤田和果奈 (東北大学) S2-02: 多結晶岩石における組織形成が浸透率に与える効果

第51回受賞者 佐藤侑人 (東京大学) S1-01: ノ目淵産スピネルカンラン岩捕獲岩の圧力推定による島弧域リソスフェア-アゼノスフェア境界領域の復元

第52回受賞者 高橋 玄 (東京大学) R4P-01: 地下深部花崗岩内生物圏の鉱物学的特徴

第53回受賞者 赤松祐哉 (広島大学) R7P-05: クラックの発生頻度の違いによる海洋モホ面での地震波不連続性

【9】応用鉱物科学賞選考のためのガイドライン作成 (大藤理事)

2020年5月23日第2回理事会審議

応用鉱物科学賞の選考について、選考を進めるためのガイドラインを学会で規定の「各種ガイドラインなど」に追記することを今年度の選考委員会より提案させていただきたい。1年任期で委員長が交代した場合でも参照できる指針を設け、スムーズに選考を進めることと、一般社団法人として必要があれば外部にきちんと同賞選考規定を示せるようにすることが本提案の理由である。具体的には、下記を「応用鉱物科学賞の選考ガイドライン」として明記いただきたい。

- 1) 選考委員会は、推薦のあった候補者の業績に基づき審査を行い、議論または投票により原則1名を選び、理事会へ推薦する。
- 2) 候補者が1名の場合は、当該候補者の推薦の可否を議論または投票により決定する。
- 3) 候補者が複数の場合は、選考方法について議論を行い、適切な方法により推薦候補を決定する。
- 4) 選考委員が候補者もしくは推薦者となった場合は、選考には加わらないものとする。

【10】JpGU 2020年学会選出プログラム委員報告 (門馬委員長)

1. 2020年5月23日第2回理事会報告

JpGU2020はCOVID-19の影響で、幕張メッセにて予定されていた現地開催を行わず、7月12日~16日にオンライン開催として実施されることとなった。共催セッションである『岩石・鉱物・資源』には口頭6件、ポスター18件の投稿があり、全てiPoster形式での発表とする。さらに7/14日午前にディスカッションフォーラムセッションを開催する予定である。

2. 2020年8月29日第4回理事会報告

例年通り、資源地質学会・日本地質学会と共同で、JpGU 2020のセッション『岩石・鉱物・資源』の提案を行い、学協会セッションとして承認した。今年のJpGUはオンライン開催となり、19件の発表があった。

(4) 本会の目的を達成するために必要な事業

【1】 庶務報告 (河上庶務幹事・理事)

1) 2019年度幹事会, 理事会開催, 準備, 調整, 監査立ち合い

(議題作成, 議事録作成, 総会招集通知資料作成, 発送, 総会議事録作成, 第2回理事会会場準備, TV会議準備)

第1回定例理事会開催: 2019年9月21日(土) 16:30-18:00 於: 九州大学伊都キャンパス A-117(イースト1号館)

第1回幹事会ZOOM会議開催: 2020年5月23日(土) 15:10-15:40 於: 東北大学理学部理学合同A棟402室日本鉱物科学会事務局

第2回定例理事会ZOOM会議開催: 2020年5月23日(土) 15:45-18:15 於: 東北大学理学部理学合同A棟402室日本鉱物科学会事務局

第3回定例理事会ZOOM会議開催: 2020年6月29日(月)10:00-12:00 於: 東北大学理学部理学合同A棟402室日本鉱物科学会事務局

一般社団法人日本鉱物科学会監査立ち合い: 2020年8月29日(土) 10:00-12:00 於: 日本鉱物科学会事務局

2018年度定時総会: 2019年9月21日(土) 8:45-10:10 於: 九州大学伊都キャンパス イーストゾーン大講義室II

2019年度定時総会: 2020年9月18日(金) 9:00-10:10 於: 東北大学新青葉山キャンパス環境科学研究科本館大会議室

2) 連合への各種対応

3) 後援, 共催, 協賛の承諾

4) 会員への連絡, 事務局の管理

5) 表彰に関する件: 第11回2019年度日本学術振興会「育志賞」受賞候補者推薦 候補者推薦なし

6) 令和3年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞, 若手科学者賞および研究支援賞受賞候補者の学会内- 推薦なし

7) 一般社団法人定時社員総会「招集通知」の電磁的方法(メール等) 採用への同意お願い

8) 一般社団法人日本鉱物科学会2019年度定時総会(2020/09/18開催)の事前お知らせ

9) 理事会開催準備, 連合への対応, 後援・共催・協賛対応, 会員への連絡, 事務局管理など。

10) 2019年度 役員 各委員会委員報告

< 理事(22名) >

会長(代表理事): 榎並正樹, 副会長(代表理事): 宮脇律郎

理事: 安東淳一, 阿部なつ江, 井上 徹, 大藤弘明, 大和田正明, 鍵 裕之, 川本竜彦, 河上哲生, 黒澤正紀, 辻森 樹,

土屋範芳, 富岡尚敬, 中村美千彦, 永井隆哉, 永島真理子, 長瀬敏郎, 伴 雅雄, 森下知晃, 塚本尚義, 吉朝 朗

監事: 平島崇男

< 幹事会 >

会長: 榎並正樹, 副会長: 宮脇律郎, 庶務幹事: 河上哲生(理事), 会員幹事: 阿部なつ江(理事), 会計幹事: 栗林貴弘, 行事幹事:

磯部博志, 和文誌編集幹事: 長瀬敏郎(理事), 英文誌編集幹事: 吉朝 朗(理事), 渉外幹事: 森下知晃(理事), 広報幹事: 大藤弘明(理

事), Elements: 興野 純, 特務幹事(細則等検討担当): 大和田正明(理事), 特務幹事(会員増対策担当): 佐藤 努, 地球惑星科学

連合2020年度学会選出プログラム委員: 門馬綱一(正)・西原 遊(副), 地惑連合連絡担当: 阿部なつ江(理事), 三鉱連絡委員:

河上哲生, 磯部博志

< 行事委員会 >

委員長: 磯部博志行事幹事, 副委員長: 片山 郁夫, 池田 剛(2019年LOC委員)

委員: 湯口貴史, 寺崎 英紀, 鍵 裕之

< 岩石鉱物科学編集委員会 >

委員長: 長瀬敏郎 幹事 副委員長: 高澤栄一

委員: 阿部なつ江, 荒川洋二, 上原誠一郎, 遠藤俊祐, 大藤弘明, 掛川 武, 興野 純, 久保友明, 栗谷 豪, 栗林貴弘,

小暮敏博, 近藤 忠, 下林典正, 土谷信高, 中井 泉, 中村美千彦, 永島真理子, 野口高明, 瀧田麻希, 林信太郎,

伴 雅雄, 坂野靖行, 平島崇男, 星出隆志, 三宅 亮, 宮原正明, 門馬綱一, 塚本尚義, 吉朝 朗

< JMPS編集委員会 >

委員長: 吉朝 朗 幹事 副委員長: M. Satish-Kumar, 永井隆哉

委員: 伴 雅雄, Kaushik DAS, 榎並正樹, 福山蘭子, 平島崇男, 市山祐二, 井上 徹, 加藤文典, 河上哲生, 河野元治,

木村純一, 小木曾哲, 栗林貴弘, 興野 純, 三河内岳, 門馬綱一, 中村美千彦, 小畑正明, 大谷栄治, 奥寺浩樹,

大和田正明, 佐藤 努, 佐脇貴幸, 篠田圭司, 下林典正, 杉山和正, 角替敏昭, 宇都宮聡

Jung Ho Ahn, Richard J. Arculus, D. Chandrasekharam, Ming Chen, Moonsup Cho, Alexander Khanchuk, Anhuai Lu, Joseph R. Smyth

< 渉外委員会 >

委員長: 森下知晃 委員: 栗谷豪(火山), 辻森 樹(地質), 井上 徹(高圧), 永島真理子(鉱物), 宇都宮聡(環境)

< 広報委員会 >

委員長: 大藤弘明 委員: 萩谷 浩, 齊藤 哲, 石橋秀巳, 浜田麻希, 河上哲生(庶務幹事)

< Elements 委員会 >

委員長: 興野 純, 副委員長: 森下知晃

委員: 片山郁夫, 宇都宮聡, 井上 徹, 鍵 裕之, 寺崎英紀, 橋 省吾, 横山 正, 瀬戸雄介, 中野伸彦, 奥村 聡, 門馬綱一

(サイエンスボード)

Society News Editor: 興野 純 Executive Committee Member: 榎並正樹会長

河上哲生(庶務), 長瀬敏郎(GKK), 吉朝 朗(JMPS), 磯部博志(行事), 森下知晃(渉外), 大藤弘明(広報)(学会役職指定委員)

< 将来企画委員会 >

委員長: 宮脇律郎(副会長) 副委員長: 森下知晃 委員: 阿部なつ江, 井上 徹, 大藤弘明, 鍵 裕之, 黒澤正紀, 中村美千彦,

永井隆哉, 永島真理子 オブザーバー: 榎並正樹(会長)

< 細則等検討委員会 >

委員長: 大和田正明(細則等検討特務幹事) 委員: 永井隆哉, 角替敏昭, 川本竜彦, 黒澤正紀

< 新鉱物・命名・分類委員会 >

委員長: 門馬綱一 委員: 上原誠一郎, 小林祥一, 清水正明, 浜根大輔, 坂野靖行, 豊 遙秋, 松原 聡, 宮脇律郎

< 教育普及委員会 >

委員長: 林信太郎 委員: 貴治康夫, 宮嶋 敏, 川手新一, 長瀬敏郎

< 博物館委員会 >

委員長：坂野靖行 委員：宮脇律郎，長瀬敏郎，森 康

<会長・副会長候補者推薦委員会>

委員長：黒澤正紀 委員：井上 徹，大和田正明，佐藤 努，永井隆哉

<日本鉱物科学会賞選考委員会>

委員長：永井隆哉，副委員長：土屋範芳

委員：井上 徹，大藤弘明，鍵 裕之，川本竜彦，梶谷 浩，佐藤 努，中村美千彦，宮脇律郎，役職指定：(会長) 榎並正樹

<渡邊萬次郎賞選考委員会>

委員長：小暮敏博，副委員長：黒澤正紀

委員：(1期日委員)：鍵 裕之，永井隆哉，宮脇律郎 (2期日委員)：土山 明，長瀬敏郎，吉朝 朗

<日本鉱物科学会論文賞選考委員会>

委員長：井上 徹，副委員長：富岡尚敬

委員：(1期日委員)：磯部博志，大藤弘明，黒澤正紀，永井隆哉 (2期日委員)：安東淳一，永島真理子，森下知晃，吉朝 朗

<日本鉱物科学会研究奨励賞選考委員会>

委員長：永島真理子，副委員長：長瀬敏郎

委員：(1期日委員)：川本竜彦，高澤栄一，辻森 樹，伴 雅雄 (2期日委員)：阿部なつ江，安東淳一，黒澤正紀，富岡尚敬

<日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会>

委員長：大藤弘明 副委員長：佐藤 努

委員：(1期日委員)：富岡尚敬，長瀬敏郎，宮脇律郎，門馬綱一 (2期日委員)：鍵 裕之，黒澤正紀，杉山和正，永井隆哉

<櫻井賞選考委員会>

委員長：松原 聡 委員：中井 泉，清水正明，宮脇律郎，坂野靖行，宮島 宏

2020年8月29日第4回理事会で櫻井賞選考委員会委員交代審議(宮脇委員長・理事)

櫻井賞選考委員会委員の次年度からの委員交代の件，中井泉会員から長瀬敏郎会員に交代する

<研究発表優秀賞選考委員会(2020年5月23日第2回理事会承認)>

委員長：新名良介 副委員長：吉村俊平

委員：(1期日委員)：篠崎彩子，鹿山雅裕，富岡尚敬，中村佳博 (2期日委員)：亀井淳志，森下知晃，石橋秀巳，瀬戸雄介

研究発表優秀賞ガイドラインの修正箇所

現在の「E.研究発表優秀賞の選考ならびに海外渡航支援制度に関するガイドライン」第2項に記載されている「正会員」の категорияが一般社団法人になってから変わりましたので，現在の「会員区分」に合わせた変更が必要。

訂正箇所 正会員の中から指名され → 一般会員 訂正箇所 学生正会員 → 学生会員

<2019年年会運営委員会>

委員長：小山内康人

委員：池田 剛(責任者)，桑原義博，仙田量子，中野伸彦，足立達朗，寅丸淳志，久保友明，上原誠一郎，宮本知治，宇都宮聡，渡邊公一郎，野口高明

磯部博志行事委員長，片山郁夫副行事委員長，池田剛副委員長(2019LOC委員)

1. 2020年5月23日第2回理事会報告

- 1) 2018年度定例総会開催，総会招集通知資料発送，総会議事録作成確認
 - 2) 2019年度第1回理事会(九大)，第2回理事会(WEB会議)開催関連，会場準備，WEB会議準備
 - 3) 各委員会委員候補者の理事選挙投票対応，各賞公募会員アナウンス対応
 - 4) 後援，共催，協賛対応
 - 5) 会員への連絡，学会誌発送
 - 6) 令和2年度日本学術振興会賞，育志賞受賞候補者募集のアナウンス
 - 7) 新型コロナ感染拡大緊急事態宣言による事務局在宅勤務員の対応
 - 8) 日本地質学会提案「大規模研究計画に関するマスタープラン2020」報告
- 2020年1月30日開催の日本学術会議第286回幹事会におきまして，日本地質学会が提案し，日本鉱物科学会が賛同して申請提言した「第24期学術の大型研究計画に関するマスタープラン(マスタープラン2020)」が承認され，「学術大型研究計画」の「内定」が，正式に決定されたことが，日本地質学会から報告された。なお，日本学術会議HP(<http://www.scj.go.jp/>)に公開中。

2. 2020年6月29日第3回理事会審議事項

「社員総会の日時，場所，議題・議案の決定」は法令で決められている理事会決議事項で，総会日時と場所の理事会決定は重要な案件です。当初の2020年年会開催での総会開催は，9月17日(木)でしたが，今回の年会開催方法の変更等と総会開催日程の調整の検討結果，総会日程は9月18日(金)が妥当となりましたので，日程変更についてご審議をお願いします。

また，会員への会告時期，開催準備の都合もあり，8月29日開催の理事会審議では会告，準備日程に無理があるので，今日の理事会への提案となりました。

なお，最終的な総会開催内容の決議は，議題，議案の決定も含めなければなりませんので，決算書ができる8月29日の第4回定例理事会になります。

-----般社団法人日本鉱物科学会2019年度定時総会開催案-----

日時：2020年9月18日(金)9:00-10:10

場所：東北大学新青葉山キャンパス環境科学研究科本館

(土屋LOC委員長に手配していただく大きい部屋)

- ・土屋LOC委員長はじめ東北大関係者(理事+報告者+LOC+事務)は会場に参加。都合がつかない場合はZOOM参加も可。
- ・現地参加者以外の理事・監事・幹事を含む報告者は，説明義務があるのでZOOMで参加する。
- ・その他の総会参加予定の会員には，感染防止のため，県境を移動しての参加を控えるようお願いし，ZOOM参加を要請する。但し強制力はないため，会場の設置が必要。
- ・欠席予定者には，代理人によってその議決権を行使する委任状又は，書面による議決権の行使を通知 する。
- ・総会日時会場が決まり次第，メール配信で会員に事前案内をする(例年8月中)。但し，HPへの掲載 は8月29日の第4回定例理事会で総会開催事項がすべて承認されてから，「総会招集通知案内」文と同じ内容を公開する。
- ・会場参加者にはマスク着用・社会的距離の確保を依頼する。学会としては現地参加者名簿の作成，消毒液準備など，東北大学ガイドラインに沿って感染防止対策を講じる。
- ・会場参加者はZOOM画面のスクリーン投影を見て参加する。
- ・会場には事務局PC・補助者(東北大関係者)が必要。
- ・ZOOM Pro 100名1契約(2,200円/月)⇒300名1契約(8,700円/月)への変更が必要。

総会スケジュール案

- 9:00-10:10 総会（東北大会会場＋ZOOMハイブリッド形式）
・議長選任 ・議事 ・授賞式 受賞者発表・紹介（と受賞者から一言？）
10:10-12:00 ZOOMによる各賞受賞講演
・日本鉱物科学会賞2件 10：15-10：45（奥地拓生会員） 10：45-11：15（小松一生会員）
・研究奨励賞2件 11：20-11：40（吉田健太会員） 11：40-12：00（杉浦悠紀会員）
* 13:00からZOOMに、新理事による第1回定例理事会開催予定。

3. 2020年8月29日第4回理事会報告

1) 会員への連絡，学会賞発送

- 2020/05/27：JpGUから「男女共同参画学協会連絡会」アンケート協力依頼がありメール配信
2020/06/12：令和3年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞，若手科学者賞および研究支援賞受賞候補者の-学会内-推薦募集
2020/06/12：一般社団法人日本鉱物科学会次期役員候補者公示 お知らせ
2020/07/10：次期会長，副会長，理事，監事選挙 WEB選挙投票開始のお知らせと投票のお願い
2020/07/17：日本鉱物科学会2019年度定時総会開催日時，開催方法のお知らせ
2020/08/05：次期会長，副会長，理事，監事選挙結果のお知らせ(公示)
2020/08/07：一般社団法人定時社員総会「招集通知」の電磁的方法（メール）採用への同意のお願い

2) 第3回，第4回理事会開催日時，議題，資料準備，ZOOM管理

- 2020/06/18：2020/06/29開催2019年度第3回理事会招集通知発出
2020/06/29：2019年度第3回理事会開催（ZOOM会議）
2020/08/15：2020/8/29開催2019年度第4回定例理事会招集通知発出
2020/08/17：各幹事，委員長へ第4回定例理事会議題案お知らせと報告内容のお願い
2020/08/19：次期第1回理事会開催の件

3) 2019年度総会開催日時，場所方法などの検討と準備，受賞者へ受賞通知，授賞式記念品準備，各委員会開催案内

4) 連合への対応，後援・共催・協賛対応

5) 事務局管理など

<2020年8月29日第4回理事会審議事項>

1. 社員総会の日時および場所，総会の目的である事項（議事及び計算書類等）の審議

（2019年度決算及び事業報告，監査報告：平島監事）

（榎並会長・河上庶務幹事理事・会計説明 栗林会計幹事）

第4回理事会は総会に向けての理事会で、いわゆる決算理事会、総会招集理事会などと言われています。別紙の資料「2019年度決算及び事業報告」を総会招集通知とともに社員全員に送り、総会で承認を受けます。なお、昨年から「電磁的方法」での招集通知送付について会員に承諾をお願いしたところ、昨年213人、今年182人合計395人の会員から承諾を得ました。郵送は434通です。社員総会ではこの資料に沿って議事進行しますので、事業報告，決算報告，監査報告の内容について、審議をお願いします。

1) 社員総会開催日程について承認（榎並会長・河上庶務幹事）

日時：2020年9月18日（金）9：00～10：10 場所：東北大学 新青葉山キャンパス環境科学研究科本館 大会議室

2) 「2019年度決算及び事業報告」について

別紙資料「2019年度決算及び事業報告」について、榎並会長から事業報告，総会議事の説明，会計幹事から決算報告の説明をします。社員総会目的事項：報告事項，決議事項（決算審議，理事，監事の審議） 理事会用明細入決算報告書を最後に掲載しました。

3) 監査報告（平島監事）

8月29日（土）10時より学会事務局において2019年8月1日から2020年7月31日までの一般社団法人日本鉱物科学会第IV期事業年度における会計及び業務の監査をオンラインにて行いました。その結果につき別紙のとおり報告します。

なお、監査実施方法につきましては、顧問先から以下の回答を得て、今回のオンライン実施になりました。

監事監査については、最終的に監事の先生が自己の責任のもとご納得のうえ監査報告書に押印することができれば、コロナの影響に関係なくいつでも実施可能で、実施手段は問われません。そのため以下の質問の方法について、監事の先生から異論がないのであれば特に問題はございません。

(1) ZOOMを利用した監査実施について

(2) 監査を受ける必要な資料全部（業務報告書，会計関係書類，通帳等）をZOOM画面を通して閲覧していただくこと。

4) 2019年度定時総会へ「2019年度決算及び事業報告」の提出の審議（榎並会長）

榎並会長から：最後に、定時総会においても、会長が各業務を一任している報告理事，幹事，委員長には会長に代わり今年度の報告をお願いしますので、総会への出席をお願いします。また、議事録には出席役員として出席(委任状，書面による議決権行使可)した理事の氏名を記載しますので、報告のない理事の方も是非出席をお願いします。

2. 社員総会への「電磁的方法(電子メールなど，FAX)」による議決権の代理行使(委任状)と書面による議決権行使についての審議

(河上庶務幹事・理事)

電磁的方法(電子メールなど，FAX)」による議決権の代理行使(委任状)と書面による議決権行使について審議をお願いします。

当学会定款には、一般法第50条1項*と第51条1項**に従い下記のように規定されており、議決権の代理行使(委任状)および書面による議決権行使は、原則紙媒体文書の直接提出や郵送での提出により行うことと規定されています。

定款 第4章 総会（決議）第17条

3 正会員及び名誉会員は、代理人によってその議決権を行使することができる。

4 正会員及び名誉会員は、書面による議決権の行使ができる。

一般法（議決権の代理行使）

* 第五十条 社員は、代理人によってその議決権を行使することができる。この場合においては、当該社員又は代理人は、代理権を証明する書面を一般社団法人に提出しなければならない。

一般法（書面による議決権の行使）

** 第五十一条 書面による議決権の行使は、議決権行使書面に必要な事項を記載し、法務省令で定める時までに当該記載をした議決権行使書面を一般社団法人に提出して行う。

一方、社員が電磁的方法（電子メール，FAXなど）を行使する為の手続きは、以下の一般法第50条3項と第52条1項に規定されています。

（議決権の代理行使）

第五十条

- 3 第一項の社員又は代理人は、代理権を証明する書面の提出に代えて、政令で定めるところにより、一般社団法人の承諾を得て、当該書面に記載すべき事項を電磁的方法により提供することができる。この場合において、当該社員又は代理人は、当該書面を提出したものとみなす。

(電磁的方法による議決権の行使)

第五十二条 電磁的方法による議決権の行使は、政令で定めるところにより、一般社団法人の承諾を得て、法務省令で定める時までに議決権行使書面に記載すべき事項を、電磁的方法により当該一般社団法人に提供して行う。

以上から、一般法第50条3項と第52条1項の会員の電磁的方法による議決権の代理行使(委任状)と書面による議決権行使について、これを実施する場合には、当学会が会員に承諾をしなければなりません。

次に、「一般社団法人の承諾を得て」について、この承諾の方法は以下の通りです。

- (1) 50条3項の議決権の代理行使(委任状)の電磁的方法による提供については、具体的な承諾方法については定めがないが、法人の業務執行の一環として事前に理事会で承認を取ることが望ましい。
- (2) 第52条1項の電磁的方法による議決権行使については、定款にその旨を定めるか、以下の一般法第38条1項4号の通り、理事が「社員総会の招集の決定」をするにあたり「電磁的方法によって議決権を行使することができる」ことを定める場合に該当し、理事会で決定することで承諾となります。

一般法 (社員総会の招集の決定)

第三十八条 理事(前条第二項の規定により社員が社員総会を招集する場合にあっては、当該社員。次条から第四十二条までにおいて同じ。)は、社員総会を招集する場合には、次に掲げる事項を定めなければならない。

- 一 社員総会の日時及び場所
- 二 社員総会の目的である事項があるときは、当該事項
- 三 社員総会に出席しない社員が書面によって議決権を行使することができることとするときは、その旨
- 四 社員総会に出席しない社員が電磁的方法によって議決権を行使することができることとするときは、その旨

【2】 将来企画委員会報告 宮脇委員長・副会長)

1. 2019年9月21日第1回理事会報告

第23回2019年将来企画委員会開催報告

日時：2019年9月19日(木) 15:00-16:00 場所：九州大学伊都キャンパス イースト1号館 B-101

議題

1) 会計問題WG委員の選任(継続審議)

5月25日の第2回理事会で委員として以下の方々が承認されました。

将来企画委員会から 井上さん、鍵さん、大藤さん、宮脇さん、永嶋さん外部から会計幹事として栗林さん。

その他、外部からの委員は将来企画委員会で検討することになっています。

オブザーバー出席幹事：栗林会計幹事

2) 「普及講演会」と「科研費説明会」の準備・開催の運営方法 (行事委員会、LOC、その他の分担)について

オブザーバー出席幹事：磯部行事幹事

3) 会員数増のための学会としての対応(継続審議) オブザーバー出席監事：佐藤努会員増特務幹事、河上会員幹事

4) その他

将来企画委員会答申について(宮脇将来企画委員会委員長・副会長)

(1) 一般普及講演の費用負担について

(2) 科研費説明会の開催の件(継続審議)

(3) その他

2. 2020年5月23日第2回理事会報告

第24回将来企画委員会(5月23日13:00-13:50)をZOOMで開催、以下の継続審議事項について審議した件の報告

1) 会員制度の見直し(継続審議)

学生会員(包括料金、一般会員への移行時の割引制度の導入など) シニア会員(永年会員制度の整備) マニア会員

2) 会費に代わる財源の模索(継続審議) クラウドファンディングについても可能性を模索。

3) 事業仕分(継続審議)

現状支出の見直し、削減可能性の模索に加え、今後の事務局の体制、運営、サービス内容についても検討を開始すべき。

3. 2020年8月29日第4回理事会審議事項

将来企画委員会内規の変更についての審議(宮脇将来企画委員長・理事)

現在の将来企画委員会内規3項(1)の委員の理事による選挙での選出を委員内規3項(1)の委員による指名に変更したい。

<理由> 委員会活動の空白時間を無くし、円滑に審議を継続するため

現在内規

3. 本委員会は10名の委員と諮問に係る幹事で構成する。

(1) 委員は理事が正会員、名誉会員の中から委員候補者を選挙で選定して、会長がこれを委嘱する。

⇒変更案

(1) 委員は、委員長によって、正会員、名誉会員の中から指名され、理事会で承認され、会長がこれを委嘱する。

付則 令和2年(2020年)8月29日改正

【3】 特務幹事(会員増対策担当) 報告(佐藤特務幹事)

1. 2019年9月21日(土)第1回理事会報告

2019年7月23日から8月28日まで実施した会員からのご意見など、情報収集のためアンケートは200人余りの会員から貴重なご意見をいただきました。アンケート結果報告。

2. 2020年5月23日(土)第2回理事会報告

1) 委員交代の件

2019年9月の第1回理事会で、会員幹事が阿部なつ江理事に交代したことで、阿部会員幹事には会員区分等検討WG委員会委員に役職指定で参加をお願いしたことをお知らせします。

2) 昨年度実施した本WGの提案として会員へのアンケート結果の対応

そのアンケートで、会員増あるいは会員数維持のための方策を考えて事業を進めることに、約96%の会員が賛成という結果が得ら

れました。また、そのための一つの方策として、「鉱物を利用している産業界の方々にも積極的に入会を勧めることが重要である」と考えることにも、約91%の会員が賛成と表明しています。しかし、産業界の方々には学会に入会していただくのは容易ではなく、何の方策もなければ学生時代に年會に参加していた方でさえ難しいと考えられます。ただし、人材確保が困難な昨今では、優秀な人材発掘のために学会に参加させる会社も他学会では見受けられます。日本鉱物学会の年會は、学生さんの就職活動期間ではありませんが、優秀な人材発掘や学生と産業界をつなげることができれば、年會に参加する学生と産業界双方にとってメリットがあるものと考えます。もし、学生が年會での発表以外に参加のメリットを感じてくれれば、数ある学会の中から鉱物学会を選んでくれる確率が上昇する可能性もあります。

そこで、以下のような事業を年會で実施できるかどうかを、行事委員および理事会に提案したくWGで検討しました。

事業内容：下記①～③の条件で鉱物利用している産業界の会社あるいは団体に、学会での展示ブースへの出展を積極的に依頼するとともに、年會において「業界セミナー」を実施する。

条件：本展示ブース出展は初日だけで、期間中を通して出展する既存の出展ブース料の半額とする。今までの展示ブースだけの出展とは別する（仮に既存の展示ブースを「展示ブースA」とし、新しく設定する本ブースを「展示ブースB」とする）。

学会初日の一般講演終了後に、学生さんが参加できる軽食を伴う懇親会と「業界セミナー」を実施する。展示ブースBを出展してくれた会社および団体は、この会への参加の権利を有する（業界セミナーの講師も務めてもらう）。この会の経費は展示ブースBのブース代で賄う。この会の仕切りは、本WG委員が担当する（佐藤が参加できれば佐藤が担当しますが、本年は粘土学会とスケジュールが重複しており、粘土学会の常務委員長である佐藤は仕切れない可能性が高いです）

展示ブースBを出展してくれた会社および団体の方々は、会員であれば登録料の支払い無しに、年會期間中の講演を聴講できる（目を付けた学生の講演が聴ける！）

ブース名	展示ブースA	展示ブースB
期間	開催期間中	初日のみ
費用	3万円	1.5万円
イベント		学生さんが参加できる軽食を伴う懇親会、業界セミナーの実施、参加権利有。業界セミナーの講師をする権利有
ブース料の行き先	LOC	初日に開催される業界セミナーの経費
参加登録費	開催期間中、会場担当者数分の参加登録費無料	会員であれば登録料の支払い無しに、年會期間中の講演を聴講できる
パナー広告	年會開催から1年間、当学会HPトップと年會HPへの無料パナー広告付き。	無し

3. 2020年6月30日第3回理事会報告

コロナの影響で2020年年會はオンライン開催となりましたため、上記の提案は見送りとなった。

【4】地惑連合報告（阿部連絡担当委員・理事）

1. 2020年5月23日第2回定例理事会での報告内容

1) 理事会報告：4月10日（金）臨時理事会が開催された。

主な議題は、2020大会について。その形式などを議論。その他、2020大会におけるJpGU-AGU-EGU共催のユニオンセッションにおける共同声明「日本地球惑星科学連合会員行動規範」の最終案について審議した。また、「オンライン開催」への特定寄付募集について（2020大会に限らず、今後の大会に向けたシステム構築にあてる予定）

オンライン開催として充実したシステムの提供に努力するので、各学協会は、できる限りセッションの維持、発表数確保に協力して欲しい旨の依頼があった。

2) JpGU-AGU Joint Meeting 2020大会について

2020年大会は、新型コロナウイルス感染拡大リスクに鑑み、会期を7月12日～16日に延期し「オンラインネット」方式により開催する。全ての発表をiPoster (AGU のeLightning同等)で行い、当初プログラムと同様日に、各セッション(要望したセッション)はオンライン会議システムによるリアルタイム討論のためのDiscussion Forum Session (DFS)を実施する。パブリックセッション・ユニオンセッションはライブ配信を積極的に実施する。

・2020年5月26日（火）17:00まで、追加投稿も受付中。 http://www.jpгу.org/meeting_j2020v/presentation.php

・参加登録は全日程一律の料金で、従来の現地大会の「1日券」（早期参加登録料金）相当の金額を設定。

http://www.jpгу.org/meeting_j2020v/registration.php

3) その他

鉱物学会年會の若手コンピナーより、2020年の秋季大会について臨時JpGU（秋季大会）として、JpGu-AGU 2020大会のシステムを利用して、国内他学会と共同でのオンライン開催が可能かどうか問い合わせあり（5月13日メール受信）

2. 2020年8月29日第4回定例理事会での報告内容

<連合大会>

・JpGU-AGU 2020 Joint Onlineが7月12日(日)～16日(木)さらに19日(日)まで延長して開催。約6000人の参加。

アンケート結果を解析中。

・7月17日（金）第8期オンライン代議員総会開催。大会形式変更による大会費の大幅変更を反映した今年度予算について

は、10月に臨時代議員総会（オンライン）を開催して承認して頂く予定。

・2021年度JpGU大会（横浜開催予定）のセッション募集等準備の開始は、一月ほど遅れて10月頃開始予定。

<2020-2021年度新体制>

・総会後のオンライン理事会にて新会長（田近英一先生）選出。田近新会長の下、9月の理事会までに新委員会の体制作りを実施中。

ジェンダーバランスを考慮し、各委員会の女性（少ない方の性）の人数を20%とするよう依頼あり。

・サイエンス・セクションのプレジデント交代。固体地球セクション大谷栄治先生から田中聡先生新体制開始。新体制は以下になった。プレジデント田中聡（JAMSTEC）、バイスプレジデント沖野郷子（東大気海洋研）、バイスプレジデント片山郁夫（広島大）、幹事 河上哲生（京大）、財務委員 鈴木勝彦（JAMSTEC）

<学協会長会議>

・7月14日（火）の学協会長会議にて、JpGU学協会長会議議長は、昨期の覆並鉱物学会会長から、公益社団法人物理探査学会・渡辺俊樹会長に交代。引き続き、各学協会の会員動向調査の実施を検討中。

【5】学術会議報告（大谷学術会議連携会員）

1. 2019年9月21日第1回理事会報告

2019年第2回 IMA小委員会開催報告 日時：2019年9月19日（木）16：00-17:00 場所：九州大学伊都キャンパス イースト1号館 B-101議題

1. 議事録(2019/05/23)の承認

2. IMA関係ビジネス報告

- ・ Councilのメンバーとして、大藤教授(GRC)を推薦した。SecretaryのHans-Peter Scherfに連絡: 欠員次第
- ・ IMAビジネス会合 EMC(European Mineralogical Conference), Cracow Poland 2020: <https://emc2020.ptmin.eu> September, 6-10, 2020.
- ・ 次回のIMAの総会: Lyon France, 2022: IMA

3. 小委員会関連の報告: 各コミッションからの報告(以下以外に新しい報告をお願いします。)

CGM: ・ CGMのメンバーの交代: 宮田博士から阿依 アヒマディ博士への変更をCGMの委員長に連絡し、承諾を得た。
CNMNC (新鉱物命名・分類コミッション): 宮脇律郎博士がコミッションチェアマンになった。門馬綱一博士が新たに日本を代表するコミッションメンバーに加わった。

CM ・ M&M9 conferenceはBulgaria, Sofiaで2020.7.5~7.7に開催される

CPM ・ EMC2020においてCPM(commission of physics of Minerals)-IMAのセッションを提案し受理された: Session title: Mineral physics and planetology: A Journey across the universe. Conveners: CONVENER P. COMODI (ITALY), C. MCCAMMON (GERMANY), E. OHTANI (JAPAN)

4. 学術会議報告

(1) 大型研究計画の評価: マスタープラン2020の策定に向けて:

5月の連合大会のユニオンセッションにおいて、①Public評価、同時に②学術会議の科学者委員会 研究計画・研究資金検討分科会の下での地球惑星科学分野の大型研究計画評価小分科会にて審査(11名の委員)6月17日に順位付けを行った。

順位: 1) ミュオグラフィ, 2) 広域観測(リアルタイム観測), 3) 革新的質量分析技術開発, 4) 戦略的火星探査, 5) 極域科学, 6) CASEAR(慧星アストロバイオロジー探査サンプルリターン)

今後、科学者委員会 研究計画・研究資金検討分科会において、全分野からプレゼン課題を選定、プレゼンと評価を

これ以外の分科会報告があましたら、西山先生お願いします。(人材育成分科会など)

(2) 夢ロードマップの公開をした: 改訂版(最終版)添付します

5. 鉱物科学における人材育成:(自由討論をお願いします。)

・ 鉱物科学を普及するために、多くの鉱物科学者が編集・執筆に関わった「鉱物・宝石の科学事典」を刊行した。

<http://www.asakura.co.jp/books/isbn/978-4-254-16276-9/>

・ 我が国の学会におけるジェンダーバランスについて議論をお願いします。海外の学会(Geochemical Society, AGUなど)では、女性の執行部が普通になっている。日本は? 女性研究者の学会活動への参加(代議員に占める割合はどうか。)

II. 2020年5月25日第2回理事会報告

2020年第1回 IMA小委員会 報告日時: 2020年5月23日(木) 14:05-14:55 場所: ズームによる会議
議題

1. 議事録(2019/05/23)の承認: 資料参照

2. IMA関係ビジネス報告

- ・ IMAビジネス会合 EMC(European Mineralogical Conference), Cracow Poland 2020: COVID19のために、開催は1年延期で29th August - 2nd September 2021 Cracow(同じ場所)で開始に決定された。 <https://emc2020.ptmin.eu/>
The new proposed date is 29th August - 2nd September 2021 - the place of the conference remains unchanged.
- ・ 次回のIMAの総会: Lyon France, July 17-22, 2022: 23rd IMA General Assembly: Session submissionを検討お願いします。

3. 小委員会関連の報告: 各コミッションからの報告(以下以外に新しい報告をお願いします。)

CPM ・ EMC2020においてCPM(commission of physics of Minerals)-IMAのセッションを提案し受理された: Session title: Mineral physics and planetology: A Journey across the universe. Conveners: CONVENER P. COMODI (ITALY), C. MCCAMMON (GERMANY), E. OHTANI (JAPAN); COVID19のため。EMC2020は、1年延期で29th August - 2nd September 2021 Cracowとなった。

CNMNC ・ 7月のCNMNCのbusiness meetingも行われなかったことになった。CNMNCの活動は滞りなく進んでおり、新種の申請の勢いには衰えはなく、新型コロナウイルスの審査への影響も見られない

CM ・ Bulgaria, Sofiaで2020.7.5~7.7に開催される予定であったM&M9 conferenceは、COVID-19のために来年2021年8月24日~26日に延期されることになった。

・ CMより各国のmineral collectionの情報提供依頼が昨年10月にあり、JAMS博物館委員会の協力を得て、日本の博物館が保有する鉱物 collectionの概要を取り纏め、2019年12月にCM委員長へ提出した。

4. 学術会議報告

(ア) 大型研究計画の評価: マスタープラン2020の策定に向けて:

2019年5月の連合大会のユニオンセッションにおいて、①Public評価、同時に②学術会議の科学者委員会 研究計画・研究資金検討分科会の下での地球惑星科学分野の大型研究計画評価小分科会にて審査6月17日に順位付けを行い、上位に件について。科学者委員会 研究計画・研究資金検討分科会において、プレゼンがなされた。

その結果、地球惑星科学領域(領域24)からは計画番号18 学術領域番号24-2「太陽地球系結合過程の研究基盤形成」(継続)、計画番号19 学術領域番号24-3「地球惑星科学・諸科学・社会とのミュオグラフィ連携研究基盤構築」の2件、また、融合領域(領域32)として申請していた地球惑星科学関連の2課題、計画番号 27 学術領域番号 32-1「航空機観測による気候・地球システム科学研究の推進」、計画番号30学術領域番号 32-1「深海アルゴフロートの全球展開による気候・生態系変動予測の高精度化」の合計4件が重点大型研究計画(全31件)に選ばれた。

また、146件の学術大型研究計画には、計画番号 92 学術領域番号 24「衛星を用いた全球地球観測システムの構築」、計画番号93 学術領域番号24-1「極域科学の新展開: 氷床変動に起因する海水準上昇予測のための拠点観測」、計画番号 94 学術領域番号 24-1「地球惑星研究資料のアーカイブ化とキュレーションシステムの構築」、計画番号95 学術領域番号24-2「革新的“質量分析技術”開発で拓く宇宙・地球・生命科学」、計画番号 96 学術領域番号 24-2「戦略的火星探査: 周回・探査技術実証機による火星宇宙天気・気候・水環境探査(MACO)計画」、計画番号 97 学術領域番号 24-2「惑星探査コンソーシアムプロジェクト: 太陽系における生命生存環境の探査」、計画番号 98 学術領域番号 24-3「広域観測・微視的実験の拠点連携による沈み込み帯プレート地震メカニズム研究の新展開」の7件が選定された。詳細はWEB参照: <http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-24-t286-1.html>

(イ) 学術会議25期の会員・連携会員の推薦(締め切り2020/1/16~2/3)が行われた。25期の会員(210名)・連携会員(2000名)の半数改選が、本年10月に行われる。各委員が交代、改選。学術会議第25期は2020/10から3年間

5. 鉱物科学における人材育成: 特に女性研究者の育成

我が国の学会におけるジェンダーバランスについて

海外の学会(Geochemical Society, AGUなど)では、女性の執行部が普通になっている。日本は?

女性研究者の学会活動への参加(代議員に占める割合はどうか。)

6. 鉱物科学とデータアーカイブ; 博物館の役割

JPGUユニオンセッションで「ビッグデータとオープンサイエンス」を議論予定

発表論文のデータをどこで保管するのか? 岩石・鉱物標本をどこでどのように保管するのか。

Data repository:の現状: ドイツの例, The World Data Center PANGAEA

鉱物科学においては? 大学図書館? 大学博物館?

III. 2020年8月29日第4回定例理事会での報告内容

1. 学術会議第24期が終了し、10月より第25期の新体制が開始する。これに伴って、会員、連携会員が決定された。メンバーの詳細は、10月以降に公表される。地球惑星科学委員会の委員長も交代となる。
2. 第24期から25期への引継ぎ事項を決定した。
3. 地球惑星地球科学委員会が企画したユニオンセッションU12「地球惑星科学の進むべき道 10 ビッグデータとオープンサイエンス」をJPGUのWEBSITEで公表した。以下のWEBSITEを参照ください：<http://www.jpгу.org/media-library/meeting-movies/>
4. IMA小委員会の24期の下記報告を7月7日の地球惑星科学委員会で行った。

【6】教育普及委員会報告（林信太郎委員長）

1. 2020年5月23日第2回定例理事会での報告内容

- 1) 教育普及委員会が中心になって行うアウトリーチ
 - ・SSH（スーパーサイエンスハイスクール）などの高大連携を活用したアウトリーチ活動を行なった。
 - ・年会における普及活動については、委員が年会そのものになかなか参加できない状況にあり、進捗は芳しくない。
 - ・新型コロナウイルスの蔓延で、今後はアウトリーチ活動が行えるかどうかかなり不安な状況である。
- 2) 教育普及委員会現在の委員会体制
 - ・委員5名の下にアウトリーチに関するワーキンググループを設置する計画は、現在も引き続き検討中。
- 3) 数年前の科学技術週間で作成した一家に一枚の鉱物のポスター
これについて、2022改訂、およびそれも利用したさまざまな普及活動を本委員会を担当するようにとの会長からの要請があり、お引き受けすることとした。
覆並会長から2020/02/12に「一家に一枚 鉱物」の第3版作成に関して教育普及委員会に依頼した。
依頼内容：IMAは、UNESCOが遂行する持続的発展のための国際基礎科学年の一環事業として、2022年を鉱物学年と定めさまざまな活動を予定しています（<https://ima-mineralogy.org/YearofMineralogy.htm>）。これに合わせて、日本鉱物科学会でもさまざまなアクションを検討することになりますが、そのひとつとして「一家に一枚 鉱物」の2022改訂、およびそれも利用したさまざまな普及活動が考えられます。この作業の学会としての担当を、教育普及委員会をお願いできないでしょうか。文科省などとの交渉や実務に関しては、事情をよくご存知の、1版・2版を主に担当された委員・会員の方々にも参加していただく予定です。

2. 2020年度の計画

新型コロナウイルス肺炎の今後の成り行きは不透明であり、計画については流動的に考えたい。

1) 教育普及委員会現在の委員会体制

- ・引き続き、アウトリーチに関するワーキンググループを設置する計画を進行させる。
- 2) 一家に一枚の鉱物のポスターの普及活動の方策を新型コロナ肺炎の状況を見ながら考え、実行する。
- 3) 小中高の理科教科書のチェックについて

学校教育で使用される教科書は、多くの児童生徒の目に触れるため、影響力が大きい。そのため、現行の小中高の理科教科書の鉱物科学的正確性は、鉱物科学の普及を考える上で重要である。そこで、現行の小中高の理科教科書中の鉱物科学に関する記述に関して、検討を行い、誤りがあった場合は理事会に図った上で、教科書会社に提言を行う。

2. 2020年8月29日第4回理事会報告

教育普及委員会今年度の目標

- 1) 教育普及委員会現在の委員会体制
- 2) SSHを通じた高大連携活動によるアウトリーチ
- 3) 一家に一枚の鉱物のポスターの普及活動の方策を新型コロナ肺炎の状況を見ながら、考え実行する。

教育普及委員会今年度の目標に追加

- 4) 小中高の理科教科書のチェックについて

実施状況

- 1) 教育普及委員会現在の委員会体制
検討中
- 2) SSHを通じた高大連携活動によるアウトリーチ
実施予定 宮嶋委員の所属する熊谷高校と東北大学とのコラボレーションを検討
- 3) 一家に一枚の鉱物のポスターの普及活動の方策を新型コロナ肺炎の状況を見ながら、考え実行する。
ジオパークでの遠隔講座として実施することを検討中、現在銚子ジオパークと交渉中。
- 4) 小中高の理科教科書のチェックについて
趣旨「学校教育で使用される教科書は、多くの児童生徒の目に触れるため、影響力が大きい。そのため、現行の小中高の理科教科書の鉱物科学的正確性は、鉱物科学の普及を考える上で重要である。そこで、現行の小中高の理科教科書中の鉱物科学に関する記述に関して、検討を行い、誤りがあった場合は理事会に図った上で、教科書会社に提言を行う。」
 - ・試行的にある教科書会社の中学校理科の教科書をチェックした。いくつかの誤りが見つかった。（口頭で報告）
 - ・全教科書会社の中学校理科の教科書についてもチェックする必要がある。
 - ・必要な予算は1から2万円なのでご検討いただければ幸いです。

【7】博物館委員会報告（坂野委員長）

2020年5月23日第2回定例理事会での報告内容

国際鉱物学連合のCommission on Museums (CM) から各国の鉱物コレクションに関する情報提供依頼が2019年10月にあり、本委員会委員からの情報を基に日本の博物館が保有する鉱物コレクションの概要を取り纏め、2019年12月にCM委員長へ提出した。

【8】新鉱物・命名・分類委員会報告（門馬委員長）

2020年5月23日第2回定例理事会での報告内容

昨年9月以降89件の新鉱物が承認され、国内からはMichitshiite-(Cu)が新鉱物として承認された。

【9】会長・副会長候補者推薦委員会報告（黒澤委員長・理事）

2020年5月23日第2回定例理事会での報告内容

指定期日までに、会員から会長候補者についての推薦がございませんでしたので、当委員会全員（大和田委員、永井委員、佐藤委員、

井上委員、黒澤)で協議・検討をした結果、宮協会員に候補者として推薦することになりました。
ご本人からのご承諾も得ておりますので、下記の宮協会員を会長候補者として推薦させていただきます。

(1) 会長候補者氏名・所属・専門分野 宮脇律郎 国立科学博物館 鉱物学、結晶学、結晶化学

副会長候補者につきましても同様でしたので、大和田委員を除く、委員会全員(永井委員、佐藤委員、井上委員、黒澤)で協議・検討をした結果、大和田会員に候補者として推薦することになりました。

ご本人からのご承諾も得ておりますので、大和田会員を副会長候補者として推薦させていただきます。

(2) 副会長候補者氏名・所属・専門分野 大和田 正明 山口大学大学院創成科学研究科 岩石学(火成岩)

以上、2020年5月19日に選挙管理委員会に届けました。

【10】選挙管理委員会報告(選挙管理委員・代表大内委員)

選挙管理委員会 委員 大内智博, 坂巻竜也

1. 2020年5月23日第2回定例理事会での報告内容

期日まで、会長候補者として1名、副会長候補者として1名、理事候補者として36名、監事候補者として1名の届出がありました。
役員規約に沿って実施し、投票月7月中の3ヶ月前の3月12日に選挙公示をしました。今後予定通り、投票期間初日の30日前まで学会HPに公示し、7月に選挙を実施します。

2. 2020年8月29日第4回理事会報告

選挙結果の報告

2020年7月13日(月)から7月27日(月)までの間に投票いただきました、一般社団法人日本鉱物科学会の次期役員選挙結果につきまして、以下のようにお知らせします。

なお、下記定款に従い、理事と監事は2020年9月18日(金)に開催される2019年度定時総会にて選任され、会長、副会長は同日の2020年度第1回定例理事会にて選定されます。

定款抜粋(役員の選任)

第20条 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。

2 会長及び副会長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

投票用紙送総数: 867 (内訳: WEB 813 郵送 54) 開票日: 2020年7月29日 立会人: 西原 遊, 境 毅

総投票数: 178 (内訳: WEB 169 郵送 9)

有効投票: 178 (内訳: WEB 169 郵送 9)

無効投票: 0 (内訳: WEB 0 郵送 0)

【11】研究部会継続申請と報告: 研究部会「岩石 - 水相互作用」

2020年8月29日第4回理事会報告 世話役 土屋範芳, 奥山康子, 藤本光一郎, 河上哲生

一般社団法人日本鉱物科学会2019年年会(九州大学)でスペシャルセッション「岩石 - 水相互作用」Water Rock Interactionを開催しましたので以下に報告します。

1. 趣旨と概要

本トピックセッションでは、「岩石 - 水相互作用」に関わる分野横断的な研究発表、情報交換を推進すべく、「みず」をキーマテリアルにして、地殻流体のキャラクタリゼーション、変成岩、火成岩との反応プロセス、熱水変質、鉱床、熱水実験、さらに流体の発生や移動プロセス、地殻内での流体の存在形態など基礎理論と実験に関する講演を広く募集する。研究の方法も、野外観察、実験、数値計算、モデリングなど多様な発表を期待し、地球プロセスにおける「みず」の役割を学際的に検討する。あわせて、除染の鉱物科学、放射性廃棄物地層処分、二酸化炭素の地層隔離、島弧システムと地熱エネルギーなどの地下利用に関する講演も募集した。

2. 口頭発表6件 ポスター4件の発表があった。

【12】International Symposium on Water-Rock Interaction (WRI) WRI-17 August 5-10, 2021 東北大学開催その後の報告

(土屋委員長・理事)

1. 2020年5月23日第2回定例理事会での報告内容

WRI-17(Water-Rock Interaction)ならびにAIG-14(Applied Isotope Geochemistry)の合同国際会議は、当初2021年8月2日から7日に仙台国際センターで開催予定であった。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大で、2020年に開催予定であった東京オリンピックが、2021年の7月から8月開催に延期されたため、オリンピックと重なる時期での国際会議開催は現実的には不可能であると判断し、開催時期の再検討を親委員会であるWRI国際委員会と協議してきた。

その結果、開催を1年延期し、2022年7/30-8/5もしくは8/7までの開催とすることで、大筋の合意を得ている。まだ、AIG-14との調整が残されているが、AIGは、WRIの意向を尊重していることから了解は得られるものと考えている。

仙台国際センターの2022年の予約状況が確定されていないため開催日程については多少動く可能性がある。

また、鉱物科学会からの貸付金についての返済期間が1年遅れることとなるため契約の見直しなどを進める必要がある。

2. 2020年8月29日第4回理事会報告

2021年8/2-8/7 仙台国際センターで開催予定であった表記国際会議(日本鉱物科学会共催)は、新型コロナ感染拡大に伴う東京オリンピックの1年延期により、開催を2020年8/1-8/6で移行させることで、国際WRI委員会の了解を得ている。

仙台国際センターの会場を仮予約も完了しているが、今後の新型コロナウイルスの感染対策(ワクチン、治療薬の開発ならびに海外渡航の状況など)を総合的に勘案し、他の国際会議の動向なども見ながら、開催の是非、開催方法などを、国際委員会、国内関連学会(日本鉱物科学会、日本地球化学会、日本地熱学会など)と意見交換をしながら、適切な開催について検討をしていきたい。

【13】会員報告(阿部会員幹事・理事)

2019年度中の会員増減

入会22 + 復活1 - 退会者等59(退会37+物故12+不明7+停止3) = - 36(減数に停止予定者15名含まない)

過去会員推移														2020年8月29日まで	
	2007年 9月20日	2008年 9月21日	2009年 9月9日	2010年 9月23日	2011年 9月8日	2012年 9月19日	2013年 9月11日	2014年 9月18日	2015年 9月25日	2016年 9月24日	2017年 8月12日	2017年 9月12日	2018年 9月3日	2019年 8月29日	2020年 8月29日
一般会員(R)	892	886	865	846	840	702	686	672	652	628	598	602	583	565	554
シニア会員(RS)						139	142	148	154	171	175	175	178	175	176
学生会員(S)	78	76	78	68	88	103	94	87	88	83	81	83	84	90	72
永年会員(L)	39	36	33	37	39	37	40	41	36	34	35	35	35	36	32
名誉会員(H)	11	9	9	7	7	7	6	6	13	13	17	17	16	14	10
会員合計	1020	1009	985	958	974	988	968	954	943	929	906	912	896	880	844

【14】細則等検討委員会報告(大和田細則等検討特務幹事・理事)

2019年9月21日の第1回理事会に答申内容。

提案事項

日本鉱物科学会賞選考委員会に関するガイドライン(新設)

提案理由: 8

- (1) 当選考委員会委員が推薦人となり候補者を推薦した時の選考方法を規定する。
- (2) 各年度で公募記事内容が異なることを避けるために、推薦者が提出する受賞候補者の応募書類の内容を規定する。

日本鉱物科学会賞選考委員会に関するガイドライン

(選考委員が推薦人の場合)

1. 選考委員会委員が推薦人となる場合、その委員は選定の審査に参加しないこととする。

(公募記事の記載事項)

2. 推薦の提出書類には、次の5項目を記述すること。

- 1) 候補者の氏名、所属及び連絡先(住所、E-mailアドレス、電話番号)
- 2) 推薦者の氏名、所属及び連絡先(住所、E-mailアドレス、電話番号)
- 3) 受賞対象となる業績題目とその具体的内容(日本語で1500-2000字程度、あるいは英語で500 words程度)
- 4) 業績リスト(これまでの i) 査読付き原著論文と ii) 著書及び総説等を分けて記述し、そのうち iii) 主要業績10点を明示してください)

- 5) 候補者の略歴

このガイドラインは、2019年 月 日から適用されるものとする

【15】モンゴル資源地質学会と当学会の学術交流協定調印(MOU)報告

2019年9月21日に、モンゴル資源地質学会(Mongolian Society of Economic Geologists (MonSEG)) Dr. M. Ochirbat会長と一般社団法人日本鉱物科学会榎並正樹会長により、両学会の学術交流協定の調印が更新された。

【16】「岩石・鉱物の日」制定の件(宮脇副会長)

ユネスコが2022Year of Mineralogyと制定したこと、AGIとMSAがMinerals Day on Monday, October 12, during Earth Science Week 2020を提案していることと連携していく提案。

II. 2020年度(一般社団法人第 期)事業計画書及び収支予算案などの件

(1) 2020年度事業計画紹介(榎並会長)

編集事業: 岩石鉱物科学、Journal of Mineralogical and Petrological Sciencesの発行

行事事業: 2021年年会(広島大学)の開催と2020年度定時社員総会の開催、一般普及講演 各賞の表彰事業

その他本会の目的を達成するために必要な事業

(2) 2020年度収支予算紹介(19頁に掲載)(栗林会計幹事)

III. その他

一般社団法人日本鉱物科学会2020年度会計 補正収支予算 理事会承認	
2020年8月1日から2021年7月31日まで	
科 目	2020年度予算
経常収益	
会費収入	7,941,000
一般会員	5,069,000
シニア会員	1,236,000
学生会員	313,000
永年・名誉会員	13,000
購読会員	700,000
賛助会員	260,000
未収会費	350,000
前々年度分回収会費	50,000
出版物収入	1,970,000
和文誌（GKK）収入	200,000
英文誌（JMPS）収入	1,750,000
バックナンバーその他	20,000
広告収入	40,000
年会収入	334,000
雑収入	100,000
経常収益計	10,385,000
前年度繰越金	3,237,003
経常収入合計	13,622,003
特定資産前年度繰越金	6,209,453
学会賞等刊行基金	3,477,031
学会賞・奨励賞・論文賞基金	795,638
渡邊萬次郎賞基金	87,459
国際学会・年会基金	1,849,325
収入合計	19,831,456
科 目	2020年度予算
経常費用	
刊行費	4,221,000
GKK印刷本冊費	1,000,000
GKKその他印刷費	100,000
JMPS印刷本冊費	1,900,000
JMPSその他印刷費	500,000
通信運搬費	360,000
コピー機支払リース料	111,000
英文校閲費	200,000
J-Stage-EM利用料	50,000
集会費	80,000
年会開催費	30,000
会議費	50,000
学会賞副賞	200,000
鉱物学会賞記念品費	70,000
研究奨励賞記念品	40,000
応用鉱物科学賞	20,000
論文賞記念品	15,000
渡邊萬次郎賞記念品	5,000
受賞者懇親会費	0
受賞者参加費	0
発表賞支援金	50,000
Elements購読会費	1,250,000
管理費	5,397,400
支払報酬料	430,000
租税公課	2,000
法人税、住民税及び事業税	76,400
給料手当	3,400,000
法定福利費	500,000
旅費交通費通勤手当	374,000
臨時雇賃金	10,000
旅費交通費出張費	10,000
水道光熱費	20,000
地代家賃	70,000
通信費電話回線料	125,000
通信費郵送料など	80,000
送金手数料	70,000
消耗品費PC関係	30,000
消耗品費コピー利用代	100,000
消耗品費その他	50,000
鉱物ポスター印刷費	0
支払寄付金（地学オリンピック）	50,000
YMO補助	0
雑費	30,000
経常費用計	11,148,400
次年度繰越金合計	8,683,056
	19,831,456

決議事項

I. 第1号議案 2019年度（一般社団法人第 期）事業報告，決算承認の件

（説明：栗林会計幹事， 監査報告：平島監事）

1. 2019年度（一般社団法人第 期）決算について(栗林会計幹事)

(1)貸借対照表

貸借対照表			
令和 2年 7月31日現在			
一般社団法人日本鉱物科学会			
			(単位：円)
科 目	当年度	前年度	増 減
資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	3,581,205	3,819,534	238,329
前払費用	1,403,482	432,864	970,618
流動資産合計	4,984,687	4,252,398	732,289
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
学会賞等刊行基金	3,477,031	3,477,006	25
学会賞・奨励賞・論文賞基金	795,638	967,116	171,478
渡邊萬次郎賞基金	87,459	92,574	5,115
国際学会・年会基金	1,849,325	1,899,309	49,984
特定資産合計	6,209,453	6,436,005	226,552
固定資産合計	6,209,453	6,436,005	226,552
資産合計	11,194,140	10,688,403	505,737
負債の部			
1. 流動負債			
前受金	1,138,500	0	1,138,500
前受会費	232,420	392,000	159,580
預り金	457,210	80,485	376,725
未払法人税等	76,400	77,700	1,300
流動負債合計	1,904,530	550,185	1,354,345
負債合計	1,904,530	550,185	1,354,345
正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	(6,209,453)	(6,436,005)	(226,552)
正味財産合計	9,289,610	10,138,218	848,608
負債及び正味財産合計	11,194,140	10,688,403	505,737

(2)正味財産増減計算書

正味財産増減計算書			
令和 1年 8月 1日から令和 2年 7月31日まで			
一般社団法人日本鉱物科学会			
			(単位:円)
科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
会費収入	8,181,152	7,774,724	406,428
一般会員	4,975,000	4,796,000	179,000
学生会員	377,000	352,000	25,000
シニア会員	1,203,000	1,161,000	42,000
永年・名誉会員	15,000	19,000	△ 4,000
購読会員	662,152	716,764	△ 54,612
賛助会員	260,000	260,000	0
前年度分会費	689,000	469,960	219,040
出版物収入	1,533,100	1,900,420	△ 367,320
和文誌(GKK)収入	73,300	240,600	△ 167,300
英文誌(JMPS)収入	1,437,900	1,614,400	△ 176,500
バックナンバーその他	21,900	45,420	△ 23,520
広告収入	10,000	50,000	△ 40,000
年会収入	2,465,500	2,506,500	△ 41,000
雑収入	124,175	185,018	△ 60,843
経常収益計	12,313,927	12,416,662	△ 102,735
(2) 経常費用			
刊行費	3,938,452	4,154,414	△ 215,962
GKK印刷本冊費	946,911	1,004,195	△ 57,284
GKKその他印刷費	47,834	157,884	△ 110,050
JMPS印刷本冊費	1,746,200	1,700,742	45,458
JMPSその他印刷費	499,867	430,874	68,993
通信運搬費	395,793	432,542	△ 36,749
支払リース料	111,456	111,456	0
英文校閲費	137,041	264,341	△ 127,300
J-Stage-EM利用料	53,350	52,380	970
集会費	1,918,235	2,289,857	△ 371,622
年会開催費	1,866,635	2,208,001	△ 341,366
会議費	51,600	81,856	△ 30,256
学会賞副賞	176,602	161,010	15,592
鉱物学会賞記念品費	70,000	0	70,000
研究奨励賞記念品	40,000	40,756	△ 756
応用鉱物科学賞記念品	20,770	0	20,770
論文賞記念品	8,519	15,880	△ 7,361
渡邊萬次郎賞記念品	5,115	4,374	741
発表賞支援金	32,198	100,000	△ 67,802
Elements購読会費	1,227,374	1,400,316	△ 172,942
管理費	5,825,472	5,929,848	△ 104,376
支払報酬料	381,235	412,400	△ 31,165
租税公課	0	12,915	△ 12,915
給料手当	3,400,874	3,400,874	0
法定福利費	510,548	481,974	28,574
旅費交通費通勤手当	374,040	374,040	0
臨時雇賃金	314,840	233,850	80,990
旅費交通費出張費	132,090	102,680	29,410
水道光熱費	20,907	19,938	969
地代家賃	62,436	0	62,436
通信運搬費	208,558	233,587	△ 25,029
支払手数料	96,394	90,357	6,037
消耗品費	227,536	409,406	△ 181,870
ポスター印刷費	0	28,188	△ 28,188
支払寄付金	50,000	50,000	0
YMO補助	0	62,640	△ 62,640
雑費	46,014	16,999	29,015
経常費用計	13,086,135	13,935,445	△ 849,310
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 772,208	△ 1,518,783	746,575
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 772,208	△ 1,518,783	746,575
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前一般正味財産増減額	△ 772,208	△ 1,518,783	746,575
法人税、住民税及び事業税	76,400	77,700	△ 1,300
当期一般正味財産増減額	△ 848,608	△ 1,596,483	747,875
一般正味財産期首残高	10,138,218	11,734,701	△ 1,596,483
一般正味財産期末残高	9,289,610	10,138,218	△ 848,608
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
II 正味財産期末残高	9,289,610	10,138,218	△ 848,608

(3) 財務諸表に対する注記

財務諸表に対する注記				
一般社団法人日本鉱物科学会				
1. 重要な会計方針				
(1) 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は税込方式によっている。				
2. 特定資産の増減額及びその残高 特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。				
(単位：円)				
科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
学会賞等刊行基金	3,477,006	25	0	3,477,031
学会賞・奨励賞・論文賞基金	967,116	9	171,487	795,638
渡邊萬次郎賞基金	92,574	0	5,115	87,459
国際学会・年会基金	1,899,309	56,806	106,790	1,849,325
小 計	6,436,005	56,840	283,392	6,209,453
合 計	6,436,005	56,840	283,392	6,209,453
3. 特定資産の財源等の内訳 特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。				
(単位：円)				
科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
学会賞等刊行基金	3,477,031	(0)	(3,477,031)	(0)
学会賞・奨励賞・論文賞基金	795,638	(0)	(795,638)	(0)
渡邊萬次郎賞基金	87,459	(0)	(87,459)	(0)
国際学会・年会基金	1,849,325	(0)	(1,849,325)	(0)
小 計	6,209,453	(0)	(6,209,453)	(0)
合 計	6,209,453	(0)	(6,209,453)	(0)

(4) 附属明細書

附属明細書				
一般社団法人日本鉱物科学会				
1. 特定資産の明細				
特定資産については財務諸表に対する注記に記載しているため、附属明細書での記載を省略している。				
2. 引当金の明細				
該当なし。				

2. 監査報告 (平島監事)

25頁の監査報告書の通り。

II. 第2号議案 役員（理事、監事）選任の件

選挙管理委員会 委員 大内智博，坂巻竜也，則武史哉

2020年7月13日(月)から7月27日(月)までの間に投票いただきました，一般社団法人日本鉱物科学会の次期役員選挙結果につきまして，以下のようにお知らせします。

なお，下記定款に従い，理事と監事は2020年9月18日(金)に開催される2019年度定時総会にて選任され，会長，副会長は同日の2020年度第1回定例理事会にて選定されます。

定款抜粋（役員の選任）

第20条 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。

2 会長及び副会長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

投票用紙発送総数：867（内訳：WEB 813 郵送 54）

総投票数：178（内訳：WEB 169 郵送 9）

有効投票：178（内訳：WEB 169 郵送 9）

無効投票：0（内訳：WEB 0 郵送 0）

開票日：2020年7月29日

立会人：西原 遊，境 毅

下記理事候補者22名，理事次点候補者1名，監事候補者1名について，一人ずつ氏名を読み上げそれぞれについて諮ります。

理 事（22名）			
	氏 名	所 属	研究分野
1	宮脇 律郎	国立科学博物館	鉱物学，結晶学，結晶化学
2	大和田 正明	山口大学大学院創成科学研究科	岩石学，地質学
3	安東 淳一	広島大学大学院先進理工系科学研究科	岩石鉱物変形学
4	阿部 なつ江	海洋研究開発機構	火成岩岩石学，岩石物性
5	井上 徹	広島大学大学院先進理工系科学研究科	地球内部物性，高圧地球科学
6	池田 剛	九州大学大学院理学研究院	岩石学
7	磯部 博志	熊本大学 大学院先端科学研究部	地球惑星物質科学・鉱物学
8	大藤 弘明	愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター	鉱物学，結晶成長，電子顕微鏡
9	鍵 裕之	東京大学大学院理学系研究科	地球内部物質科学
10	片山 郁夫	広島大学大学院先進理工系科学研究科	岩石レオロジー
11	川本 竜彦	静岡大学理学部地球科学科	沈み込み帯流体論
12	河上 哲生	京都大学大学院理学研究科	岩石学
13	栗林 貴弘	東北大学大学院理学研究科	鉱物学・鉱物結晶学
14	黒澤 正紀	筑波大学大学院生命環境科学研究科	鉱物学・流体包有物分析・微量元素分析
15	辻森 樹	東北大学東北アジア研究センター	変成岩岩石学
16	土屋 範芳	東北大学大学院環境科学研究科	地殻流体科学，環境地質学
17	永島 真理子	山口大学大学院創成科学研究科	鉱物学・結晶学
18	長瀬 敏郎	東北大学学術資源研究公開センター	鉱物学
19	伴 雅雄	山形大学理学部	火山岩岩石学，火山学
20	三宅 亮	京都大学大学院理学研究科	鉱物学
21	坂本 尚義	北海道大学大学院理学研究院	鉱物学
22	吉朝 朗	熊本大学先端科学研究部	鉱物結晶学，結晶構造・局所構造研究
次点	永井 隆哉	北海道大学大学院理学研究院	鉱物物理化学
監 事			
	氏 名	所 属	研究分野
	小暮 敏博	東京大学大学院理学系研究科	粘土鉱物学，地球表層物質科学

各賞授賞式（榎並会長）

【1】2019年度日本鉱物科学会賞表彰

第22回受賞者：奥地 拓生 会員

業績題目：水素を含む地球惑星内部物質の構造と拡散の研究

第23回受賞者：小松 一生 会員

業績題目：高圧下中性子回折法の手法開発ならびに水素を含む鉱物の高圧相転移の解析

【2】渡邊萬次郎賞表彰

第36回受賞者：島崎 英彦 永年会員

【3】2019年度日本鉱物科学会論文賞表彰

第22回受賞論文

Title: Pressure-induced crystallization of biogenic hydrous amorphous silica. Journal of Mineralogical and Petrological Sciences, 112, 324–335, 2017.

Authors: Atsushi KYONO, Miho YOKOOJI, Takashi CHIBA, Tomoya TAMURA, Akihiro

受賞者：興野 純会員，田村知也会員

【4】2019年度日本鉱物科学会研究奨励賞表彰

第27回受賞者：吉田 健太 会員

研究対象：「沈み込み帯で生じる脱水流体やそれに関連する物質収支の研究」

第28回受賞者：杉浦 悠紀 会員

研究対象：「リン酸による炭酸カルシウム多形制御メカニズム解明と生体材料への応用」

【5】2019年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞表彰

第12回受賞者：入船 徹男 会員

受賞題目：「ナノ多結晶ダイヤモンドの合成とその多様な科学研究・新材料創製への応用」

【6】2019年度櫻井賞表彰

第（第45回）受賞者：栗林貴弘 会員

対象鉱物：日立鉱

【7】2019年度JMPS学生論文賞受賞論文表彰

第9回受賞論文：Kota SUZUKI and Tetsuo KAWAKAMI, Metamorphic pressure-temperature conditions of the Lützow-Holm Complex of East Antarc deduced from Zr-in-rutile geothermometer and Al_2SiO_5 minerals enclosed in garnet. 114-6, 267-279, 2019

受賞者：鈴木康太 投稿時：京大・修2

第10回受賞論文：Yuki MORI and Takeshi IKEDA, Formation of triple-layer coronas between corundum and hornblende from the Lützow-Holm Complex at Akarui Point, East Antarctica. 113-2, 68-81, 2018.

受賞者：森 祐紀 投稿時：九大・博1

監査報告書

令和2年(2020年)8月29日

一般社団法人日本鉱物科学会
代表理事(会長) 榎並 正樹 殿
代表理事(副会長) 宮脇 律郎 殿

一般社団法人日本鉱物科学会
監事 平島 崇男



私監事は、2019年(令和元年)8月1日から2020年(令和2年)7月31日までの一般社団法人日本鉱物科学会第IV期事業年度における会計及び業務の監査を行いました。
その結果につき次の通り報告します。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と認められる監査手続きを用いて計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及びその付属明細書の適正性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の方向を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、理事の業務執行の妥当性を検討しました。

2. 監査意見

- (1) 計算書類及び付属明細書は、一般社団法人日本鉱物科学会の財政及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書は、法令及び定款に従い一般社団法人日本鉱物科学会の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の業務の執行に関し、不正な行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

以上